令和２年度

研修集録

秋田県立横手高等学校

巻頭言　「黒板、紙～デジタル」

校長　木村利夫

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々に学校現場の活動が制約を受けた年だった。この制約はいずれは解消されることになるだろうが、教育現場で進められるデジタル化の波は今後も一層増すことだろう。この３月にはデジタル教科書について、文部科学省有識者会議が中間まとめとして、２０２１年度の全国的な実証実験を踏まえた上で、２４年度の本格導入を検討するよう求めたとある。本県においては、コロナ禍にあって大幅に前倒しされたGIGAスクール構想もあり、県立高校生には１人一台のパソコンが貸与されることになる。この機会に、長い間、黒板と教科書、ノートでの教育活動が中心であった学校が大きく変わっていく、いや変えていく必要性に迫られている。しかしながら、学校現場からはさまざまな懸念の声が報道されている。たとえば、次のようなものである。

読売新聞が３月に実施したデジタル教科書に関する調査によれば 「紙とデジタルの教科書で優れていると思う点」では、 「じっくり読めて読解力や思考力が深まる」のは、紙が４３％、デジタルが２％ 「取り扱いが簡単で学習に集中できる」では、紙が４１％、デジタルが７％となっている。 一方、デジタルが優位な点として多かった項目は 「動画や音声で児童生徒の興味関心を高められる」の９６％などであった。

これとは別に、研究者による研究報告には、記憶に残る学習形態として紙に書くというのが、タブレットへの書き込みより優れているとの報道がなされている。

2016年4月6日配信のウォールストリートジャーナル（By ROBERT LEE HOTZ）『あなどれない「手書き」の学習効果』によると、「書く」というプロセスが情報を記憶に深く焼き付ける」ことが科学的にも明らかにされてきたと記している。また、米プリンストン大学とカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の研究者のデータによると、パソコンに打ち込むより手書きでノートを取る学生の方が総じて成績が良いことが判明。同じくノートの取り方を比較した別の研究者の実験でも、タイピングよりも手で書く人の方は学習内容の飲み込みが良く、情報を長く記憶し、新しいアイデアを理解するのにも長けていることがわかったということである。

これらの調査、研究報告は書いて覚えることを常識としてきた世代にとって、納得できる結果でないだろうか。ここまで、デジタル化には分が悪い話であるが、一方でICTの利用はこれまで教師が時間をかけて教えていたことを、生徒がパソコンで検索して知識を得ることであっという間に情報を入手できる便利さがある。その短縮できた時間を使って、さらに多くの情報に分け入り、さまざまなデータを駆使してさまざまな観点から、いわゆる教科横断的に検討し解明すべき学習課題を設定できる可能性を秘めている。

こうして考えると、タブレットに頼りすぎることなく、デジタルと紙媒体をうまく使い分けることが、これからの学校教育に求められていると考えることができる。かつての紙一辺倒の時代は知識偏重の時代だったと言えるかもしれない、デジタル化とは思考力を重視するためにある、デジタル嫌いの先生方にはそんな風に考えてもらい、積極的に研修と実践を図っていただきたいと願っている。

目　次

＜巻　頭　言＞　校長　木 村 利 夫

頁

＜校内相互授業参観＞　研 修 部　1

＜授業研修＞

公開研究授業　18

（1）国　語　科 …… 成 田 陽 香　19
（2）地歴・公民科 …… 濱 田 風 香　23
（3）数　学　科 …… 木 元 大 輔　28
（4）理　　科 …… 髙 橋 里 実　30
（5）英　語　科 …… 藤 原　誠　33
（6）保健体育科 …… 齊 藤 孝 弘　37
（7）芸　術　科 …… 松 井 麻 美　41
（8）ＭＤＳ基礎（学校設定科目）…… 鈴 木　亘・今 野 栄 一　44

＜研修報告＞

年次研修

令和２年度高等学校初任者研修報告 …… 濱 田 風 香（地歴公民科）　46
実践的指導力習得研修講座（高等学校８年目）を終えて 奥劦屋 景 子（英　語　科）　52

学校訪問・協議会等

仙台三高との相互交流事業　56
教科協議会の記録（国語）　57
教科協議会の記録（数学）　58
教科協議会の記録（英語）　59

校内研修会

ＳＳＨに関する研修　61

令和２年度　第１回校内相互授業参観月間要項

研 修 部

１　期　　間　　第１回　令和２年６月１日(月)～３０日(火)（１９日間）
　　第２回　令和２年１０月１４日(水)～１１月１３日(金)（２２日間）

２　時　　間　　期間内の１校時から６校時まで

３　対　　象　　全教員

４　目　　的　　・教員が互いに授業を参観し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを目指す。
・教科を越えて意見を交換し合うことにより、さまざまな視点から目標や課題を見いだす。
・他の授業における生徒の状況を観察し、生徒を多面的に理解するきっかけとする。
・教員が学び合う姿勢を生徒に示す。

５　参観方法

（１）期間中

授 業 者	参 観 者
①授業実施。 ②提出された「参観カード」を読み、自分の授業を振り返るきっかけにする。 ③授業参観する際の視点の一つとして活用する。	①授業参観。 ②授業後、「参観カード」に感想を記入し、授業者と研修部１部ずつ提出する。授業者への助言に限定せず、自分の授業改善に関わる気付きなどを中心に記入する。

令和２年度　第１回校内相互授業参観週間
授　業　参　観　カ　ー　ド

授業者	先生	科目名	
クラス	ＨＲ	参観日	月　日（　）　校時
参観者名		参観できた時間（導入　途中　後半）約　分間	
学習課題の提示・確認			
思考判断			
言語活動			
板書の工夫			
その他			

※全項目を書く必要はありません。参観した部分でお気付きの点のみご記入ください。

※他教科の授業も含め、積極的に参観する。
※授業全体を通して参観することが望ましいが、部分参観も可とする。
※「授業参観カード」の様式は共有フォルダ内に準備。
　研修部への提出分はデータでも可。
　(¥¥gyoumu43¥共有¥R2 校内相互授業参観¥第 1 回校内相互授業参観カード.xlsx)
※期間中は毎朝、前日まで参観者数を朝会連絡（クラスルーム）で報告して、参観を促す。

（２）期間終了後
・研修部が「授業の感想」をとりまとめ、紙面化する。(休憩室に一枚置く、または掲示を検討中)
・年度末に研修集録に掲載する。

（３）その他
　期間外も、積極的な参観希望や参観受け入れをお願いしたい。

６　実施状況

（１）第１回・第２回比較

	授業を参観した人数		参観された授業総時数	参観された授業時数（教科別）									
	実人数	延べ人数		国語	地公	数学	理科	英語	保体	芸術	家庭	MDS	LHR
第１回	22	62	62	7	20	4	13	9	1	4	1	2	1
第２回	20	52	52	2	23	3	4	7	5	5	1	2	0

※数値はすべて研修部に提出されたアンケート用紙を基に算出していますので、実際の実施状況とは異なる部分があると思われます。

図１　授業参観者数

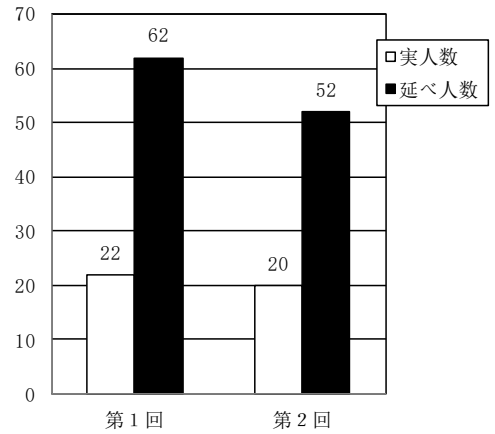
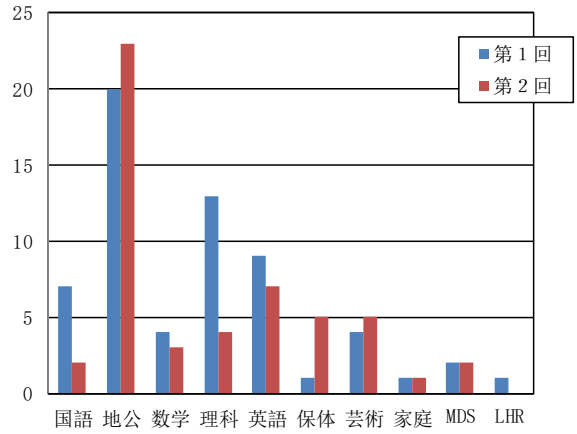


図２　参観された授業時数（教科別）



（２）過年度比較

	授業を参観した人数		参観された授業総時数	参観された授業時数（教科別）									
	実人数	延べ人数		国語	地公	数学	理科	英語	保体	芸術	家庭	MDS	LHR
平成28年度	20	27	27	10	6	4	1	5	1	0	0	0	0
平成29年度		31	31	4	8	2	4	10	1	2	0	0	0
平成30年度	12	18	18	6	4	1	4	2	0	0	0	1	0
令和元年度	34	57	57	8	15	6	9	8	4	7	0	0	0
令和２年度	**42**	**114**	**114**	**9**	**43**	**7**	**17**	**16**	**6**	**9**	**2**	**4**	**1**

※数値はすべて研修部に提出されたアンケート用紙を基に算出していますので、実際の実施状況とは異なる部分があると思われます。

図１　年度別授業参観者数

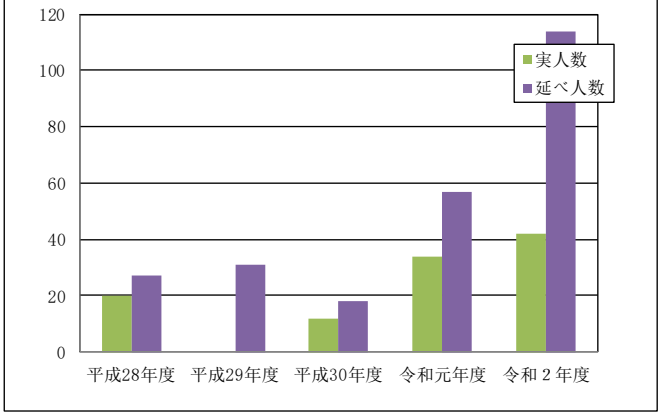
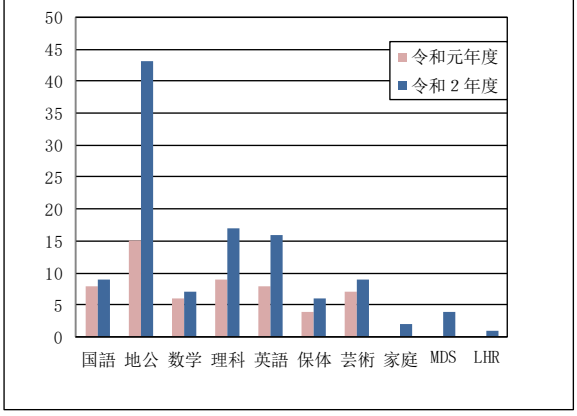


図２　参観された授業時数（教科別）



第１回校内相互授業参観週間（６月１日～30 日）授業参観カードのまとめ

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

6月3日	国語	国語総合 現代文	③	言いたいことは分かるがあえて言語化させる、という目的を伝えて頑張らせていた。
			④	生徒の意見が出ると対比させて書く。基本的に生徒から出た意見をまとめていく。34人の生徒が話し合えば、触れておきたい重要なキーワードはだいたい生徒から出てくる。
			⑤	大学教員や研究分野、前期入試などの話題を取り入れている。発言したい生徒は多い。生徒は顔を上げて聞いている。「国語の時間に辞書を忘れることは（　）のようだ」忘れる人がいなくなるまで、例えさせると言っていた。当てられて答えられない生徒を待つ、ということも見習いたい。
6月5日	国語	国語総合 古典	②	既習事項は次々と全員に問いかけることで、生徒が集中して授業に向き合っていました。一方で時間をとって個人にじっくりと考えさせる部分もあり、授業の緩急の大切さを改めて感じました。
			③	何度もペアワーク、グループワークを取り入れることで、理解を深め合っていました。特に教訓をまとめる部分は、色々な人の意見を聞くことで、内容はもちろん表現方法も磨くことができていたと思います。
			④	全文は書かず、重要箇所のみを書いておりとても見やすかったです。最後のまとめは生徒の意見を板書し、それを用いてポイントを解説していたのが印象的でした。私はつい自分でまとめて板書してしまうので、生徒の意見を活かす形にしたいと思います。
			⑤	白文で読むことに挑戦していたことに驚きました。語順や置き字の働きを意識させるために有効に思うので、ぜひ取り入れます。クラスが明るい雰囲気で、授業も楽しもうという雰囲気が感じられました。
6月5日	国語	古典B	②	「夫の浮気の証拠をみたとき、自分ならどうする」という問いかけにより、現代との相違点が意識させられていました。「恋愛」という普段授業で話さないであろうテーマで、生徒も楽しそうでした。
			③	作品に対する考えや文法事項の確認など、積極的に話し合っていました。副助詞「だに」から他の副助詞も確認することで、より正確に作品を理解することにつながっていたと思います。
			④	プロジェクターで本文と重要箇所を示すことで、教員側が板書する時間が短縮でき、そのぶん生徒の様子を確認することができると思いました。
			⑤	ジブリ作品やLINEなど、現代に例えるならば…という例が豊富で、生徒も引きつけられていました。
6月5日	国語	古典B	②	あえて訳を説明せず、「なぜこのように考えたのか」と原文を示して問いかけることで、生徒同士が読むことに能動的であったように見えました。
			③	適宜ペアワークを入れることで、読解が深まっていました。意見を聞き合い、さらに考えようとする雰囲気が良かったです。
			④	本文と訳、重要語句が整理されて書かれており、とてもわかりやすかったです。生徒が考える際、顔を上げて黒板を参考にしている様子が多く見られました。品詞を色ではなく図形で表す、という方法も参考になりました。
			⑤	「あくまでも日記であり、我々は作者の言い分しか聞いていない」という視点にはっとさせられました。書き手の感情を味わいつつ、「本当に？」と疑う視点も持たせたいと思います。
6月10日	国語	現代文	①	黒板に各グループの「みんなの分からなかったこと」を書かせる。小説『檸檬』を読み、何が出てくるかあらかじめ分からないので、授業の展開や着地点が読みづらい、とても高度なスキルを要する授業だった。
			②	各班の疑問を取り上げ、話し合わせたり、生徒とやりとりをしながら解明していく「すっきり感」を味わえる授業だった。
			③	何かと「隣と相談して」と生徒に言って、活動を促していた。質問を工夫して相談しやすいネタをふってやるとなおよい。
6月24日	国語	国語総合 古典	②	便覧を使用して中学校以上の内容を整理する時間をとっていた。
			③	ペアを基本単位にして中学校で学習した内容の復習、白文を読むなどしていた。
			⑤	テンポ良く進んでいたのと、生徒が話しやすい雰囲気のなかで自由に考えを発言していたのが印象的だった。
6月25日	国語	古典B	①	前時までの確認が丁寧になされていて、よく分かった。
			②	生徒たちが疑問に思いそうなところを的確に捉え、生徒に考えさせながら丁寧に説明していて大変参考になった。
			③	生徒の積極的な発言を促す雰囲気があり、見習いたい。
			④	情報機器を効果的に使い、理解しやすい。
			⑤	白文を読ませる取り組みをマネしたい。
6月1日	地歴	日本史B	②	試行テストの史料問題の考え方を確認する。すべてのグループが正解だったが、いつまでも史料の背景を確認し続けていた生徒もいた。そういう生徒を活かすことで深めたり、復習したりする発展的な学習ができると感じた。
			③	意図が分かりにくい発問があった。
			⑤	絵画資料などを利用して生徒の自由な発想を引き出してみては。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

6月1日	地歴	日本史B	①	本時の目的地を示すことで、教師も生徒も授業に入りやすいと思う。
			②	律令の官制では現代との共通点について考えさせる発問があり、生徒の理解を深めるうえで効果的であった。
			③	言葉を精選しており、最小限の説明で理解しやすかった。
			⑤	生徒の表情を見ながら解説すると、より生徒に響くと思う。
6月3日	地歴	日本史B	②	琉球王国について復習も交えることで生徒に考えさせていた。状況に応じて深く掘り下げる必要性を感じた。
6月3日	地歴	世界史B	①	ルネサンスの意味が「再生」だということが、ギリシア・ローマと中世の美術を比較することで感覚的に理解できるようになっていた。文化史では社会の状況と関係づけようと意識してはいるが、本時のように学者の意見を紹介するのは効果的だと感じた。
			④	スライドで提示していた街の風景や写真に引きこまれた。
			⑤	ジョットの話が面白かった。このようなエピソードが生徒の印象に残り、ルネサンス期についての知識が定着していくだと思った。
6月4日	地歴	世界史B	①	スライドに明示されていた。
			②	教師が教材に対して深い知識を得ていて、説得力ある授業に生徒たちは引きこまれているようだった。
			④	しっかり準備されたスライドで計画的に授業が進められていた。
6月5日	地歴	日本史B	①	黒板に明示されていた。
			②	教師の問いかけに対して、学習したことを元に考えようとしている様子がみられた。予測したり推察したりするときに根拠をもって考えてみることが、後の共通テストにつながるかもしれない。
			③	ペアワークによってお互いの考えが深まっていたように思う。また、それが自分の考えに自信を持つことに役立っている人もいたようだ。
			④	板書が準備されていて、特別教室で授業するときはこの手があるのかと思った。私地私民の制度を図示しているのが印象的だった。
6月5日	地歴	世界史B	①	授業プリントに目標が書かれているので毎時意識できると思う。
			②	エピソードの具体性や例えが身近で、難しく感じさせない。
			④	授業プリントを投影しながら進めているため、板書の時間が節約できる。生徒の反応をよく観察しながら進めることができる。少し戻って復習したりもしやすい。拡大したり一瞬だけ戻ったりしながら、進み方にメリハリが出る。
			⑤	しばらく説明に聞き入ったり、画面を切り替えたり、意見や既習事項を問われたり、メリハリがあって後半でも生徒の集中が切れることはなかった。専門性や引きつける話術はマネできるものではないが、自分なりに切り替えポイントを意識して構成を考えたい。
6月5日	地歴	世界史B	①	授業者が的確に示すことで、生徒は授業の目的を常に意識できている。
			②	生徒が興味を持てるような質問で（なぜ人々は皇帝の名前や顔を知っていたか？）、通貨を引き出させたり工夫されていた。
			③	班のなかで自分の考えや答えをよく話し合っていた。日本史Aで首相の愛称を考えさせたが、それを世界史でも取り入れ、生徒はよく関連付けていたと思う。
			④	左側に年表、中央に地図、小さいパネルと色チョークが効果的に使われていた。ヨーロッパ・アフリカ・イランなどが同時に分かるようになっていた。
6月8日	地歴	世界史A	①	前時の復習を丁寧に行っていた。
			④	自分は黒板に文章をかなり書いてしまうが、そこまでしなくても生徒は考えてノートをとっていることがわかった。必要な情報、書くべき情報を整理されていて参考になった。
6月8日	地歴	日本史B	②	条里制と条坊制、「おだいりさま」、「国語でやったかな？」など、ちょっとした声かけやエピソードで知識をつなげる工夫があった。
			③	適宜、近くの人と確認し合う時間があり良かった。時には「間違えられないよ」というプレッシャー、緊張感も大切だと感じた。
			④	図を用いながら、重要箇所は黄色で整理されていた。プリントに対応する番号を書いてもらえることで、生徒も安心できると思う。
			⑤	「710」の語呂合わせで生徒の声を拾っていた点がお見事でした。選択授業だからこその発言のしやすさもありそうです。日本史選択者だからこそ分かる古文もあるので、そういったときに活躍して欲しいな･･･と思いました。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

6月8日	地歴	世界史B	②	既習事項を思い出す、既習事項をもとに考える事が何度もあり、今の学習内容を他の時間のことと結びつけさせるような意識がされていた。
			③	ホワイトボードを用いてグループごとに活動するとき、ゲーム感覚で楽しそうだった。生徒の、何かを思い出したとき、気付いたときの「ああ～」の声が良かった。
			④	中央に地図がある。何度も地図で「このあたり」と示すことで、位置、領土の把握につながっていると思った。
			⑤	15人。教室で見ると思ったより少なく、あの人数ならば結束感も生まれるだろうなと感じた。
6月11日	地歴	世界史B	②	複雑なヨーロッパの話がものすごいスピードで流れていく。生徒は本当によくついていっていた。しかも、質問にもよく応答していた。予習のこれまでの学習内容の定着の成果である。
			③	「アウグスブルグの宗教和議」についての話し合い
			④	スライドがよく整理されている。長めの指示棒があるとよい。ドイツの荒廃を説明するためのビジュアル資料はうまいタイミングで生徒たちを引きつけていた。
			⑤	個人的には東欧の近代化の足かせとなった農奴制の話になるほどと思った。近代化とは何か、現代も近代化中なのか、考えさせられた。
6月22日	地歴	地理B	①	授業で扱う内容の間に上手なタイミングで入る社会のあり方を考えさせる話題が生徒にとって最も大切なのではと思った。
			②	知識（答え）ひとつにつき、必ずその理由を考えさせ、答えさせる展開によって常に思考判断が続く展開。
			③	発問に対して生徒たちはどうにかして解答するが、よく間違う。間違うことが許され、間違いながら学んでいくことができる。
			④	プリントと地図のみ。生徒はよく考える事になる設定。顔を上げて授業に臨んでいる。板書も無駄が全くなかった。
			⑤	昨日の進路講演会の復習を導入に行うことで、生徒の意識が高まり、生徒が発言しやすい教室になった。
6月23日	地歴	世界史A	③	単語の確認などもグループ活動を通じて行うことで、生徒の知識理解につながっていた。
			⑤	手持ちサイズのホワイトボードの使い方が有効であった。
6月23日	地歴	日本史B	②	矛盾する2つの事実から、現在の学習内容を復習させた。「幕府収入の増加」「零細本百姓も増加」→「税率の変化」は分かりやすかったし、生徒にストンと落ちたと思う。生徒の思考を刺激していた。
			③	生徒同士の会話のレベルが高く、活発な活動になっていた。
6月23日	地歴	日本史B	①	「本時の課題」を書こう。
			②	「なぜ、一揆なのか？」「なぜ、打ちこわしなのか？」という生徒の？を引きだそう。
			④	その日の分量もあると思うが、黒板1枚に全部書き切れるようにしよう。
			⑤	生徒に年齢が最も近いという強みを前面に出していこう。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

6月8日	公民	現代社会	①	休み時間のうちに提示されていた。また、最後に振り返りがクイズ形式でなされており、とても効果的であった。
			②	生徒自身の問題として捉えやすいように「問い」が設定されており、思考を深めるための綿密な準備があることがうかがわれた。二人一組のプレゼンはぜひ取り入れてみたい。
			③	1～2分の話し合いを5回ほど行っていた。それぞれ違うアプローチの問いかけだったことにより、生徒が前のめりで居続けるきっかけになっていた。
			④	授業冒頭のニュースを紹介する箇所と、授業内容の板書を明確に区分けしていてとても見やすい。
			⑤	アプローチ：①クイズ②グラフの読み取り③感想④体験談⑤プレゼン 今回はなかったが、授業の「型」として、「瞑想タイム」を儲け、深く思考させているとのこと。また授業を2本立て構成にしており、その境目にもなっている。
6月8日	公民	現代社会	①	「高校生は悩みが多い」ことの本質を学ぶ 提示する課題が的確で分かりやすかった。「本質」という言葉に生徒はひきつけられるだろうなと感じた。
			③	生徒自身の経験を聞いたり、先生自身の経験を話したりしながら、この時期悩むことは当たり前だということが生徒に伝わっていたのではないかと思う。
			⑤	15の夜や卒業を歌詞を見ながら聴くのは初めてだった。
6月9日	公民	現代社会	①	黒板に掲示されていた。授業が前半・後半に分け、上手に構成されていた。
			②	1つくらいは30秒といわず1分くらい考えさせる場面があってもいいかも。
			③	発問→周りの人との話し合い、の流れが工夫されているので、深い思考が促されている。いきなり質問をぶつけたり、ヒントを出したり、それも小出しにしたり。答えさせ方もあてたり、一斉に言わせたり、ペアでせーので言わせて同じところあるかと聞いたり。
			⑤	テンポ良く話し合いなどの活動も入り、瞑想まであり、倫理をあれほど面白く教えている授業をこれまで見たことがない。エヴァンゲリオンの話はもっと聞きたかった。
6月12日	公民	現代社会	②	生徒が大学生活をイメージしやすい。教訓が豊富。
			③	例えが通じなくても、説明するところは、少数を置いていかないためにも大事だ。
			④	資料集を拡大しながら読んだり見せたりする。どこをやっているか分かりやすい。
			⑤	例えが分かりやすい。捨て身の自己開示に生徒が引き付けられる。悲劇まで笑いに落とす力量はさすが。エピソード終わって本題に戻ってまとめるが、最後にまた自分の例に戻るのは計算ずく？
6月4日	数学	数学Ⅰ	①	絶対値記号を含む方程式　場合分け　因数分解
			②	生徒が熱心に課題に取り組んでいる。生徒の間違いに対して、間違った人の思考プロセスを考えさせていたのはよかった。
			③	黒板に答えを書いた生徒が解答解説をする。質疑応答をして生徒たちにやりとりさせる。教師が我慢して生徒の発言を引き出していた。
			④	横の黒板でも生徒に来させて指示棒で示しながら説明した方がいい。生徒の声が小さくて共有できないかもしれない。
6月5日	数学	数学Ⅰ	②	生徒の誤答を直す際は生徒に判断させるいい機会だと感じた。普段自分で直して解説してしまっていたので是非とも取り入れたいと感じた。
			③	ペアで話し合わせる前に自分の考えを持たせる（真か偽かの判断）ことで活発に話し合っているのだと感じた。自分の考え→話し合い→個に戻る流れを意識したい。
6月16日	数学	数学Ⅰ	③	発問を多くすることで、生徒が発言できる機会を多くとっていた。また、発言しやすい雰囲気をつくっていた。
			④	授業前半に板書した関数のグラフを消さずにとっておき、授業の後半に学習した関数のグラフを同じ座標平面に違う色で描き入れることで、双方のグラフの違いや特徴を比較できるようになっていた。
			⑤	中学校での既習事項を丁寧に確認していた。
6月23日	数学	数学A	②	例題の数値を変えて問題として成立するか確認→rは0以上の整数であるという隠れた条件に触れることで問題場面の深い理解を図る
			③	立てた式の意味を説明させる→普段から習慣づけることで式を表現方法として捉えることができる

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

6月3日	理科	生物基礎	①	導入部で黒板に提示されていた。
			②	限られた時間のなかで、顕微鏡を製作し、観察させることができていた。
			③	実験の説明と同時に前回の内容の確認で生徒に考えさせていた。
			④	顕微鏡の実験だったため、分かりやすく要点のみ書かれていた。
6月3日	理科	生物	①	情報伝達に関わるタンパク質の学習に入る前の導入を丁寧にしていた。
			②	身近な反応を例に考えさせる授業だった。
			③	生徒が積極的に意見していた。
			④	字が大きく見やすい。コンパクトにまとまった板書だった。
6月3日	理科	生物基礎	①	最初に提示されていた。
			②	極力教えず、生徒の自主性を大事にしている。
			③	スケッチは1個を大きく、直線で大胆に描く。「絵で描けないことは言葉で書く。」
			④	生徒にスケッチの時間を与えるため、最小限の板書。
6月4日	理科	化学	②	実験操作をしながら反応に驚いたり、疑問を持つことで思考力が身に付くような仕掛けが随所に見られました。
			③	指示事項が分かりやすく、各班でも相談しながら実験が進められていた。少々時間的に窮屈で、発表の場面が少なかったのは改善が必要だと思った。
			④	板書とプロジェクターを併用し、時間を節約しつつ見やすく工夫されていた。
			⑤	実験の授業だったが、安全への配慮や指示が徹底していた。また、生徒が生き生きと取り組んでいて、かつ思考力が養われていると感じる授業だった。
6月4日	理科	化学	①	スライドで前回の復習、黒板の左側に実験の課題がしっかり掲示されていた。
			②	準備された実験道具、プリントの説明でしっかり考え協力し、時間内に実験を終えていた。
			③	実験の考察や発問に対し、グループワークにより言語活動が行われていた。
			④	前回の復習と本時の課題が左右に掲示されていて見やすい。
6月4日	理科	SS物理	①	黒板に示されていた。
			③	教師の問いかけに各自よく反応し、よく教えあっていた。
			⑤	話し合いによる解決の時間がもっとあればよかった。数学のように生徒に黒板前で説明させるという手もある。
6月5日	理科	生物基礎	①	プリントに明記。事前に配布し、予習あり。導入がスムーズで、生徒に本時の内容をある程度イメージさせている。
			②	プリントの考察の欄が良い。班ごとに実験のセンスが問われ、時間内に終わらせるために判断や協力がみられた。
			③	考察の時間を実験の時間にしっかりとれていた。この時間に班内で相談や意見交換ができていた。
			⑤	プリントが素晴らしかった。
6月5日	理科	化学	①	事前に板書してあり、しっかり生徒に提示・確認できていた。
			②	実験操作の意味や、次にどのようなことが起こるのかを考えさせる場面を数多く設定してあり、とても勉強になった。
			③	生成した沈殿や錯イオンの名称など、生徒に問いかけ発言させる場面が数多くあった。また、協同して取り組む場面の設定の仕方は、今後自分の授業に取り入れたい。
			④	実験計画は板書してあり分かりやすい。実験結果についてはプロジェクターを活用し、場面に合わせて必要な情報を提供する工夫が勉強になった。
			⑤	必要な実験を、ゆとりを持ってしっかりと生徒に観察させ考えさせる余裕のある授業で勉強になった。
6月8日	理科	生物	①	黒板に書かれていました。
			②	説明をしない・しすぎない＆担当問題を決めることで、何とか周りの人と話し合って解決しようという意欲を感じました。教科書、資料集、プリント、クロームブック、クラスメイト…と使えるものは何でも使う姿勢は、今後1人で問題を解くときや、研究をするときにも大切な姿勢だと思いました。
			③	問題演習を、個→ペア（クラス内誰でも）→個→ペアで説明しあう、という流れにより、理解が深まっているように見えました。説明のときは根拠を明らかにして（他の選択肢の間違いも指摘しながら）説明していて良かったです。
			④	文字、図ともに大きくて見やすかったです。タイマーの数字もよく見えました。
			⑤	得た知識を話す楽しさや、他の人と答えを確認する緊張感、見落とした点に気付いたときの気持ちよさを味わう雰囲気がとてもよく感じられました。生徒が生き生きとしていました。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

1月0日	理科	SS地学	①	プロジェクター＆プリントで、課題は極めて明確だった。
			②	断層を実例の写真などで示して説明した時は生徒全員顔をあげて興味深そうに聞いていた。生徒の表情が良かった。
			③	各班での話し合い、実験がうまくちりばめられていて、考え、話し合い、表現することがよく行われていた。
			④	このスライドを作るのにとても労力を要したのでは・・・
			⑤	断層がとてもよく分かった。正断層・逆断層の違い、この授業を受けていたら一生忘れないと思う。
6月11日	理科	物理	①	実験をやってからスライドで本時のテーマを提示。「コンデンサーの充電の仕組み」 最初に実演してみせて興味を引きつけるところがよい。
			③	プリントの穴埋めをやると、人のを写してでも埋める作業に終始してしまいがちなので、質問するなどして生徒の反応をみながら、やりとりしながら進めるとよいと思う。
6月16日	理科	化学基礎	③	グループ内で4セットの質量組み合わせで準備したことで（準備の個数を減らすため班で分担する手もあるが、この方が良いと感じた）、互いに分担するため話し合ったり、モル計算のため知っている人に聞いたり教えたりといった活動が自然にできていた。
			⑤	実験における注意指示がしっかりなされていた。
6月22日	理科	生物基礎	①	黒板に掲示。
			②	とにかくしょっちゅう問いかける。だいたい、一人で考え→共有→答える。とりあえず受け身にさせないための取り組みやすい問いと、しっかり悩ませる問いは入っていた。
			③	一つの問いに対しての答えを4～5人に答えさせている。同じ答えが続いても聞く。板書にはキーワードと図しかないので、板書の図を見ながら、先生の説明をしっかり聞く必要がある。集中して聞く時間と書く時間をしっかり分けているところを見習いたい。
			④	キーワードがマグネットにして見やすいのと、最後にまとめるときにも移動して説明しやすい。図が上手い。板書を写す時間をしっかりとっている。板書は図とグラフのみですっきりしている。
			⑤	グラフで小さい紙で配られたのは、ノートに貼り付けるための配慮。一度間違えた方が良いというメッセージを強く出していた。直すときも消さないで赤ペンで、という具体的な指示。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

6月3日	英語	コ英Ⅱ	②	グループで辞書を調べながら考えを深めていた。
			③	相談が進んでいない班はなく、積極的に話し合い、意見を述べていた。ホワイトボードに書かせる工夫があった。
6月3日	英語	コ英Ⅰ	②	本文読解の説明が分かりやすく参考になった。
			③	教科書本文の音読練習をしていた。発音のポイント等が明示され、生徒たちは積極的に参加していた。
			④	質問の答えを生徒が黒板に書き、教師が添削していた。
6月3日	英語	コ英Ⅰ	②	本文の読解をペアで相談し合いながら進めていた。内容に関連した質問が生徒の興味を誘っていた。
			④	構文の板書が分かりやすかった。
6月4日	英語	コ英Ⅱ	②	教科書の内容に関連したクイズを出題していた。生徒たちはグループで積極的に相談し合いながら答えていた。北極などについての知識が広がり、語彙力もつく活動だと思った。
			④	絵を用いて説明していて分かりやすかった。
6月5日	英語	コ英Ⅱ	①	流れが記されていた。
			③	ペアワークは、教師の指示でパッと始まり短時間ですぐ終わり、次の内容に･･･という流れ。これが連続して行われていた。テンポが良く板書も速い。語彙・語法・文法の解説の両方が両立できていた。
			⑤	各種活動がスピーディーに展開され、子供たちも戸惑っているところが全くなかった。進学校としてのコミュニカティブな授業だった。
6月15日	英語	コ英Ⅱ	②	本文の要約を英語で行う活動であり、生徒たちは既習事項を振り返りながら作業を進めていた。
			⑤	ALTとJTEの役割分担がよくなされていた。
6月22日	英語	コ英Ⅰ	①	提示されていたが、もっと明確な課題を設定した方がいいと思う。
			②	例えばvolley ballのvolleyの意味、dodge ballのdodgeの意味を教える、確認することで、より生徒の好奇心を刺激できると思う、
			③	活発であったが、単語レベルのものが多く、文・あるいは文章へと移行させる取り組みに期待したい。
			④	プリントとほぼ同じ内容であれば、今回の板書はなくても良かったのでは？
6月23日	英語	コ英Ⅱ	①	左側に明示されていた。
			②	読み取った内容を求められた形で日本語で書いて説明させることで、生徒の理解度が露呈し、教員側の指導に役立つと思った。
			③	ペアワークで疑問を解決し、授業への積極性が増していた。
			⑤	ある程度の長さを持った文章を読むことに慣れさせるための英文の扱い方において、勉強になった。
6月30日	英語	コ英Ⅰ	③	テーマが難しいかなと思ったが、生徒は自分の考えをなんとか英語にしようと努力していたし、実際にできていた。教師が机間巡視によって適宜支援していた。
			⑤	教師の指示が的確で、生徒は取り残されずスムーズに流れにのっていた。
6月4日	体育	保健	①	授業冒頭に黒板に示されていた。
			②	発問の連発で、生徒の発言を拾っては進めていくやり方で、飽きさせず集中力を保たせている。
			③	問に対し、4～5人が挙手して発言している。全員指名されると起立してイスを机に入れて気をつけして話している。声の大きさも十分である。ノートのまとめかたも3色以上のペンを使っている。生徒の発言内容について、他の生徒に振ってみるのはどうか？

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

6月1日	芸術	美術Ⅰ	①	過去の作品を鑑賞し、鉛筆画の様々な可能性を感じさせ、それまで考えていたアイディアにどう生かすか想像できるように工夫されていた。
			②	過去の作品を鑑賞し、鉛筆画の様々な可能性を感じさせ、それまで考えていたアイディアにどう活かすか想像できるように工夫されていた。画材や構造の与える効果について生徒が真剣に考えていた。
			③	生徒一人ひとりと言葉を交わし、それぞれのテーマが明確になるように導かれていた。
			④	制作・試行の流れがつかみやすいよう簡潔に示されていた。本制作への導入前に参考作品を鑑賞したことで、それまでのアイディアを覆さずに活かす工夫がなされていた。
6月4日	芸術	美術Ⅰ	①	黒板に掲示されている。本時が単元のどこであるかも明記。常に完成時と現在を確認する意識が生まれる。
			②	生徒は集中していた。時々考えをめぐらせている様子も見られた。「スピードではないこと、立ち止まって、当初のゴールに向けて修正するのも、方向を変えていくのもどちらも大切
			③	目標、評価の観点を自分で考えて決めるのが面白い。ゴールと現在地を自律的に意識していくことになる。批評の時間では、まず作品とタイトルだけで表現し、受け取り、それから言葉で交流させていた。言語の使い方が他教科と違う。
			④	注意事項も明記されていた。
			⑤	制作途中では、わざと他者の考えや存在に影響を受けないように、個人の活動にさせていると聞き、なるほどと思った。同級生の作品や経過を全く気にしていないように見えるぐらい没頭していた。助言は最小限にしていた。
6月4日	芸術	美術Ⅰ	①	本画制作2時間目。アイディアがかたまり、描き込みをしていくなかでどのような工夫が考えられるか示されていた。
			②	新たな画材として練り消しゴムが導入され、先に全員一度触れさせて使用させることで実感を高めていた。
			③	集中して制作に取り組み、静まりかえっているなかでも、新たな画材を手にして戸惑いながら隣の人と話す姿や、「練り消しすごい」という声も聞こえた。また、黒板の絵を見て話し合う様子もみられた。
			④	作例が前回と別のものになったり、画材の使い方を分かりやすく示されていた。
6月15日	芸術	美術Ⅰ	①	「友人の作品を見て良さや改善点などを考える」という学習課題とポイントを板書していた。
			⑤	生徒は積極的に友人の作品を鑑賞し、付箋にコメントを記入していた。相互に学び合いができると感じた。
6月24日	家庭	家庭基礎	①	ホワイトボードが3分割されており、左に衛生・感染防止熱中症対策、右に後片付け、中央に本日のポイントが大きく提示されていた。
			②	3つの料理を作る内容だったが、調理の順番を考えるポイントもあった。
			③	全員マスクをつけ、話し合いながら進めていた。
			④	感染防止と熱中症防止について、ホワイトボードに大きく書かれていた。具体的な調理の手順はプリントにして配布。
			⑤	すべての窓を開け、大きな扇風機を2台使用していた。それでも火を使っているので暑かった。各班を動き回り、マスクをして指示・助言をする先生は大変だと思った。
6月3日	MDS基礎	MDS基礎	①	課題が提示され、評価についても丁寧に説明されていた。
			②	一人ひとりが別々のデータを使用して、それぞれ異なるヒストグラムを作る。最後にグラフから読み取れることを書かせる授業構成が良かった。
			③	言語活動を促す工夫があった。「全員違う県にしなさい。どの県にするかは自分たちで決めてください。」「分からないとき、誰に聞けばよいかが分かることが大事な力だ。」
			④	スライドの提示の仕方がすごい。
6月3日	MDS基礎	MDS基礎	①	教えるべき内容・手順が明確で、生徒への提示も的確だった。
			②	学習内容的に自ら思考・判断することはあまりなかったが、新しいことを学んだ感動は味わえていた。
			③	隣の人から助けてもらっている場面もあった。自由にやらせている時間もつくっていた。
			④	語りとスクリーンの画面が上手くマッチしていて分かりやすく聞きやすかった。
6月24日	LHR		①	黒板に明示。ワークシートもある。板書が縦書き。
			②	正解のない問いなので、各自よく考えられただろう。
			③	話し合いは活発だった。おとなし気味の班もあったが、全員真面目に話していた。発表はとても良かった。
			④	生徒の発言を聞きながら手早くまとめて黒板に書いていくのが上手い。
			⑤	グループを解体したり、再結集させたりして面白い。

第２回校内相互授業参観週間（10 月 14 日～11 月 13 日）授業参観カードのまとめ

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

	参観日	参観教科	参観科目		感　　想
1	10月27日	国語	現代文	①	常時提示していた。黒板左端に「○読」をたくさん挙げていて、その中から朗読や音読の違いを問いにしていた。導入時にやったことを視覚的に残し、１時間通して重要な問いになることを確認できていた。
				②	問いがあると一人・ペア・全体と確認する流れができていてスムーズ。どの生徒もすぐに話し始め、熱心に議論しているペアも見られた。
				③	普段から順番に読み慣れているのだと思うが、特に「読」が主題になっている教材でもあり、朗読や音読の違いがポイントになっていた。放送部など生徒の得意に合わせ読ませていたが、生徒の読みのレベルが高すぎて驚いた。
				④	左利きで縦書きするのは大変そうだが、速い。黒板の端の使い方。
				⑤	先生の説明が早口に感じたが、生徒は慣れている？逆に問いかけなどは丁寧で伝わるようにしているので、メリハリはついていると思う。
2	11月10日	国語	古典Ｂ	②	複数テクストを用いて教科書にとどまらない開いた問による思考の場が設定されていた。
				③	ジグソー法を流用した話し合い活動が設定されていた。
3	10月20日	地歴	日本史Ｂ	②	授業の前半くらいで課題に対する答えがほぼできていたのではないか。仏教そのものの内容にももっと触れた方がよいかも。浄土宗・浄土真宗の関係など。
				③	３つの仏教について調べるように割り振っておいて、３人グループで教え合わせ、その後に「なぜ？」という課題を話し合わせたらどうか。せっかくのグループ活動が、もともと時間がないうえプリントを埋める作業があって十分でなかったのが残念。説明と活動のバランスはどの授業でも難しいと思います。
				⑤	プリントは後回しにしても良かったかもしれません。
4	10月20日	地歴	日本史Ｂ	①	「後三条天皇はどのような政治をしたのか？」という課題は漠然として答えづらいかなと思ったが、21HRの生徒たちならこれくらいの方が思考が深まっていいかと感じた。
				②	事項を頭から教えるのではなく、まず資料にあたらせ、読み取らせ、近くの生徒と話し合わせ、質問してその答えから授業を進めていくという手法は素晴らしい。しかも、「百錬抄」「愚管抄」という視点の異なる歴史書を取り上げ、比較したりしながら史実を明らかにしている典などは歴史学の深さを伝えているように思えた。
5	10月20日	地歴	日本史Ｂ	①	学習課題の提示のタイミング、課題へのアプローチの仕方の説明が適切であった
				②	ホワイトボードに図化するまとめ方は斬新だった。具体的な指示がなくても、グループごとにポイントを整理できていた。参考にしてみたい。
				③	ペアワーク・グループ活動が活発で、生徒が話し合いながら理解を深めている姿が印象的だった。
				④	念仏系の宗派の要点をもう少し絞れば後半に時間的なゆとりができたと思う。
				⑤	『歎異抄』の読解の部分で、親鸞の教義の核心に迫りかけていたグループがあった。史料を読ませるときの的確な指示があれば、親鸞の教義の特異性や、人々に支持された理由についてより深く考えることができたと思う。
6	10月20日	地歴	日本史Ｂ	①	一番上に書いて提示した方がよかった。冒頭のメモは黒板右側でも良かったと思う。
				②	考えさせる時間が十分にあり、指示も適切だった。
				③	漢字の確認など、大型の教養になっていた面もあった。まとめる文章はチェック段階で指導すればよいと思う。
				④	プリント空欄の埋め方が独特だった。あとは思考力を促すような情報の記載とレイアウトを意識すればよいと思う。
				⑤	研究授業としてのチャレンジと、普段の授業での取り組みのバランスがとれていたように思う。時間オーバーも生徒に資するなら100歩譲ってＯ．Ｋ。
7	10月22日	地歴	地理Ｂ	②	乾燥の度合いの違いを考える場面では、既習事項を生かしていた。その際、イベリア半島のスケールに着目するよう指示していた。
				③	センター試験の問題は個人→ペアで考え方を確認していた。「根拠をもって」が大事だと思った。
				④	図解　黒板右のマグネットシートなど、シンプルなのに分かりやすく、必要な情報が分かりやすく書かれていた。
8	10月26日	地歴	世界史Ａ	①	黒板に明記されていた。
				②	社会主義革命が実現したことが他国にどのような影響を与えるのか、生徒がイメージしやすいモデルをつくって生徒に投げかけていた。
				③	ペアワークが活発に行われていた。
				⑤	授業に必要な「例え話」は、分かりやすさにつながる反面、誤解を招く可能性もあるので、慎重さが求められると思う。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

9	10月26日	地歴	日本史Ａ	①	前時の復習からスムーズに本時の学習課題につながっていた。
				④	人物や出来事の色分けがなされており、プリントを補う補足説明も適切に記述されていた。
				⑤	生徒が教科書や図説を丁寧にチェックしながら授業に臨んでいる姿が印象的であった。
10	10月28日	地歴	日本史Ｂ	②	御家人の気持ちを生徒に考えさせて代弁させていたのは場面が良かった。幕府に対する御家人の不満が高まり、それがどこへ向かっていくのか、その後の流れにつながる発問だった。
				③	生徒との会話、問いかけで進行していた。
				④	図示、チョークの色使い。
11	10月29日	地歴	日本史Ｂ	③	既習事項と関連付けていた。
				④	キーワードが分かりやすくシンプルで見やすい。
				⑤	語呂合わせ、人物名など印象に残る話が随所にある。
12	10月30日	地歴	地理Ｂ	②	理型ならではの知識と関連させていた。今日の内容は資源だったので特に関連させやすいのかと思った。他クラスよりも遅れているため教師主導だったと振り返られていたが、データを元に発問し、生徒の力に応じて問のレベルを変えていた。
				④	天然ガス、石炭の埋蔵している場所と地形に関連性があるという話は地図を重ねると分かりやすそうだなと思った。
13	11月1日	地歴	日本史Ｂ	①	黒板の真ん中らへんに提示。
				②	中心的な学習課題以外の問いにも、生徒の反応を生かす。（いずれ生徒の反応パターンは蓄積されていくと思うが、それでも予想外が出るし、そのときに生かせるように意識したい）
				④	内閣ごとの特徴を平易な言葉で整理された板書で比較しやすい。 黒板の左側を生かしていた（台湾統治、樺山と比較するため？）
				⑤	一般化、現在の出来事などとの関連を意識させたい。
14	11月5日	地歴	世界史Ａ	②	戦勝国、敗戦国のお金の動きを図示する活動。小さいホワイトボードは簡単にこの手の活動ができるので便利だと思った。理解力の高い人、マニアな人が主導権を握りがちで、自分もこれをどう解決しようかと考えている。
				④	左側にあった簡単な年表をうまく使っていました。全体像をみてから細部を見るということが徹底されていた。
15	11月6日	地歴	世界史Ａ	①	最初に本時で学ぶ時代と国の確認をした。
				②	小さい問いが多く、単純なものや少し頭を使うもの、答えさせ方も説明から○×までバリエーション豊富で、多くが思考を求めるものだった。
				③	ヴァイマル憲法を読む。それ以外も、公民分野と関わる内容も丁寧に扱っていたのがよかった。
				④	ＰＰで掲示（明るくて国旗は見づらかったが用語や説明は大きくて、順番に出てくるのでわかりやすい）そこに時間をかけない分、問い・考える、の時間がとれてメリハリがつく。
				⑤	こちらが想定した答えがなかなか出なくても、理由がある間違いなら、それを解説することで、誰かがすぐ正解を出したときより全員にとって理解を深めるチャンスになる。
16	11月10日	地歴	日本史Ｂ	①	指示のタイミングが良い。授業の始めからなくても、そこに意図・ねらい・教育的効果があるならば枠にとらわれなくてもいいと考えます。
				②	１つの資料にかける時間について、じっくり１つの資料と向き合う時間を設け、思考させる工夫をしていた。
				③	コミュニケーション能力向上と表現活動が意識されていた。
				④	プリント穴埋め的な板書でなく、生徒の発言が多く書かれていたのが良かった。
				⑤	資料の見せ方や使い方にもっと工夫できないか考えながら授業している様子が見えた。方向性は合っていると思います。
17	11月10日	地歴	日本史Ｂ	①	本時の目標や中心発問などの違いはありますが、今日の授業で何をするのかを最初に示すことができればいいと思います。
				⑤	資料の注目部分を拡大するなど、分かりやすい提示方法を探して工夫してみるといいと思います。
18	11月10日	地歴	日本史Ｂ	①	授業の後半に板書で提示した。
				②	倭寇に対する生徒の価値観を揺さぶる場面では、○×形式で進めるのではなく、資料を使って考えさせるやり方が良かったと思います。
				⑤	古地図や地形などはタブレットを活用してもいいのでは？

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

19	11月10日	地歴	日本史Ｂ	①	学習課題と中心発問は別でいいと思う。学習課題は、何のために、どんな力を付けたい、と考えれば、同じのが何度も出てきて当然で、そもそも毎時提示する必要があるのか。一単元や一時間でなく、年間通底してるもののような気がする。（個人的見解です）
				②	考える問いが多く、確かにどれも重要だったが、時間に限りがあるので、中心発問に時間をかけられるように精選し、メリハリをつける必要はある。
				③	発表する生徒はしっかり文章で答えられていた。できていた生徒を認めることで、だんだん他の生徒もやるようになってくるはず。
				④	プロジェクタ、板書、プリント等の適切な用い方。拡大したり、グーグルアース使ったり目先も変えて飽きさせない工夫はよい。
				⑤	地理世界史との関連が深いテーマ設定だった。多様な資料を生かすなら科目連携のジグソーもおもしろいかもしれない。
20	11月11日	地歴	日本史Ｂ	①	近衛内閣の対外政策で日本の立場はどうなるのか？ なぜ日米交渉は決裂したのか？
				②	メインクエスチョン、サブクエスチョンで構成されていた。問い自体が明確なので生徒も考えやすかったと思う。２つ目の学習課題の問い返し、時間があればそこの問答を聞きたかった。
				④	スターリンの真のねらいを地図を基に考える。
21	11月11日	地歴	日本史Ａ	②	焼夷弾と爆弾の違い、先生の家族の話、スタルヒンの話など、メインストーリーではない部分だけど、関連していて面白い話が多かった。生徒たちの年代は、祖父母から戦中の話を聞けない世代でもあるので。
				④	板書の時が丁寧で見やすい。
				⑤	スタルヒンの墓が雄物川にあるのは知らなかった。
22	11月11日	地歴	日本史Ｂ	②	農地改革の背景などの説明も有り、図示された農家の様子も分かりやすく、生徒の思考・判断によい影響を与えていた。
				③	反応が少ないクラスで、生徒を話し合わせて復習したり、内容を確認させるなど、生徒の言語活動を適切に取り入れていた。
				⑤	机間巡視や一人ひとりの生徒への声かけがとても参考になった。
23	10月30日	公民	現代社会	②	グループで議論している場面。教材として大河ドラマを使っているが、そのワンテーマのために１つのシーンを選んだと思うが、すごい労力がかかっているのではないかと思った。
				⑤	生徒が教師の説明を必要に応じてプリントに書き込んでいた。
24	10月30日	公民	現代社会	①	復習からスタート。悪人の定義を確認。パワーポイントの冒頭に学習課題を提示している。
				②	大河ドラマの動画を用いて禅の「公案」の真意について考えさせている。パワーポイントの使用で省略できた時間を、幅広い知識を伝える時間や課題について考える時間に充てている。
				③	教師と生徒の対話の形で授業が進み、集中力を切らしていると思われる生徒に当てることで、全員が授業に参加できるようにしている。
				④	パワーポイントでの授業。タイミング良く次の内容を提示している。
				⑤	生徒とのコミュニケーションがスムーズ。生徒が積極的に話す雰囲気になっている。日本史の深い知識を分かりやすい形で伝えている。
25	11月11日	公民	現社	①	常に提示されている。
				②	小さい問いが挟み込まれ、こまめに頭を使ったり、復習したりできていた。前半のまとめをペアで行い、それを全体で共有。人の意見をどう思うかという問いもあり、聞く習慣もついている。
				③	指名された生徒が発表するときは、しっかりまとまった文章で答えられていた。指名されるのは教室を斜めに横切る感じでどこがあたってもおかしくない緊張感と、生徒の視線（頭部？）が動くのがよかった。先生の丁寧な言葉遣い。
				④	最初にキーワードが書かれていて、そのあとで説明するものと、説明しながら書く用語があり、テンポよく進められていた。ポイント３つなどと言うのでつかみやすい。色・大きさのメリハリ。
				⑤	ちなみにの具体的エピソードの量が非常に多い。ハンドマイク使い。
26	10月14日	数学	数学Ｂ	①	プリントに本日取り組む目標・問題が書かれていた。
				②	問いかけ方が明確で短く分かりやすい。誘導しながら特徴を全員に考えさせていた。
				③	丁寧で、ゆっくり言葉を必要なもののみ選んでいる。分かりやすい。相づちを打つので生徒も自信をもって答えることができる空気ができている。
				④	プロジェクターで黒板の左に問題を示し、右にチョークでやり方を示すので分かりやすい。確認用に数列の式を色を変えて書いており、復習にもなって分かりやすい。
				⑤	挙手でできた人の確認がなされていた。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

27	10月14日	数学	数学Ｂ	②	丁寧で分かりやすいが、もう少しテンポをあげてやるといいと思う。活気が出てくるのでは。
				③	話し合いをさせるのにはちょうど良いレベルの問だったと思う。最初に解法のヒントを与えていたが、ヒント無しでいきなり取り組ませてもよいと思った。グループ活動なので、一方で（１）を確認してから（２）の問題に入った方がよいと言っている参観者もあった。問題の難易度、学習者の学力、グループ構成の仕方などなど、条件によって適切なヒントの与え方が違ってくると思う。
				⑤	生徒の声が小さい。
28	11月1日	数学	数学Ｂ	①	授業中を通して、今日の例題がプロジェクタでずっと提示されていた。
				②	例題に従って問題を解く時間、グループで確認する時間。
				③	例題の説明の時もけっこう生徒とのやりとりで進んだ。最初ちんぷんかんぷんだった参観者も理解できたのでわかりやすかったと思う。
				④	黒板の３分の２（プロジェクタ以外）を三分割して、色や記号（授業ルール？）を用いてはっきりと板書されていた。簡潔で、かなり見やすい。横の黒板にも進出していた。
				⑤	あたる人が数人のじゃんけんで決まる。
29	10月27日	理科	化学	①	黒板に課題、前回の復習、本時の学び、実験方法、実験結果、まとめを見やすく板書してあり、生徒もスムーズに１時間学ぶことができた。
				②	実験値と理論値の違いから、本来なら影響をあらわしているものの、学びにつなげられていた。生徒もなぜだろうと自ら考えることができた。
				③	実験結果や考察について「理論値とのずれ」がなぜおこったのかを、グループで考え、発表させていた。
				④	１時間の授業の流れが簡単かつ明確に書かれていて分かりやすかった。
				⑤	生徒の発言に対し、今回の実験の答えがずれていても、その内容の正しさをしっかり一言添えていた。
30	10月29日	理科	SS化学	①	蒸気圧について。難しいなぁと思いました。
				②	生徒は説明をよく聞いて一生懸命考えている様子。思考力は鍛えられているに違いないと思います。
				③	一斉指導が必要な時は、「みんな顔を上げて聞いて」と指示していて良く聞いていた。「周囲と相談して確認しよう」と言っていたが、生徒はほとんど相談しないので、自力でやりたいのか？最後の方で話し合っていたので、もやもやした部分があったのだろう。教え会うことで最後に双方の思考の整理ができてよかった。安易に他人に教えを請わないところもよかった。
31	11月12日	理科	SS生物	①	評価票やプリントとして提示されている
				②	与えられた過去問を解きながら教科書や参考資料を用いて各自が自発的に積極的に行われている。
				③	同じ問題を解いた生徒どうしが２人または３人で説明・確認し合う時間を確保することで活動が充分に行われている。
				④	youtubeのアニメーション動画を用い、英語による解説付きで遺伝情報転写の仕組み説明が行われる点で進学後の実践力も加味されていると感じた。文字による板書とは異なる工夫。
				⑤	講義型の授業とは対照的で、学ぶべきところが多い授業だった。
32	11月12日	理科	SS生物	②	生徒自身が考えて判断し、理解を深めてそれを共有するという設定が確立されていてすばらしかった。問題が生徒のレベルに合ったやや手強く理数科生徒が好きそうな難易度だった。
				③	伝え合ったり、質問し合ったり、疑問をぶつけ合ったり、生徒が主体的に対話していた。普段からこのスタイルに慣れており、良く動いていた。
				⑤	映像で前回の確認をしたり、評価シートを提出させたりとさまざまな手間をかけていると感じた。
33	10月22日	英語	SSコミ英Ⅰ	①	英語で表記されており、途中で確認していた。
				③	音読やディクテーションなど様々な形で英文に触れることでインプットがなされていた。次の時間に行われる表現活動につながると思った。
				⑤	ディクテーション、英単語のペア活動を自分の授業にも取り入れたいと思った。
34	11月6日	英語	コミ英Ⅱ	①	１時間の流れを冒頭に示し、課題については活動を始める際に適切に示された。
				②	初見の資料を適切に読み取り、得た情報を自分の言葉でどうまとめたらいいかを生徒が一生懸命に考える場面が設定されていた。
				③	グループになり、お互いに活動内容について相談し合いながら活動に取り組んでいた。
				④	プロジェクターで写真や活動に使うシートを提示しながら進めていた。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

35	11月6日	英語	コミ英Ⅱ	②	生徒は辞書を用いて初見の文を理解しようとしたり、自分の考えを英語で文にまとめるなど、ひたむきに取り組んでいた。
				③	生徒の興味をかき立てる資料であった。
				④	スクリーンに授業プリントが投影されていて授業の流れがわかりやすかった。
				⑤	発表した生徒は、読み取った内容とそれに対する自分の考えを英語にし発表できていた。
36	11月6日	英語	コミ英Ⅱ	③	復習の部分では、教師の英語を聞くことも良いが、生徒から引き出すような、双方向のコミュニケーションにした方がもっと良かったと思う。
				⑤	生徒から引き出した答えを、総ての生徒が共有できるように、教師が再度その生徒の答えを繰り返すともっと良くなると思う。生徒が作ったせっかくの英文を、できるだけ多くの生徒に伝えることは、発表した生徒だけでなく、友人の英文を聞いた生徒にとってもプラスの刺激になると思う。
37	11月6日	英語	コミ英Ⅱ	①	明確に提示されていた。
				②	与えられた情報源から生徒一人ひとりが切り口を見つけて考えを深めていく形。
				③	グループワークを中心に考えを交換しあい、最終的にクラス全体で共有する流れ。
				④	板書を全体像の提示に用いていた。
				⑤	生徒に高いレベルの課題が与えられ、取り組みがいのある内容でした。
38	11月11日	英語	コ英	②	最後は各自で今日の内容を使って文を作る。
				③	簡単な質問をし合って、ビンゴを完成させる。だいたい頑張って質問していたが、こっそり日本語を使っている生徒は把握できるか。
				④	今日使う文法が大きく板書されていて、作文するときは参照できる。最後に生徒が答える前に消された。
39	11月6日	英語	コミ英Ⅱ	①	英語で最初に提示・確認していた。
				②	世界で今起きている問題について、解決策を英語で発表する。
				③	グループ内で意見を発表し合っていた。
				④	プロジェクターとスクリーンを使用
				⑤	短時間で初見の情報を読み取って、意見を発表するのは大変だが、良い練習に鳴ると思った。マララさんのスピーチとＳＤＧｓを結びつけて考えるアイディアが良いと思った。
40	11月5日	保健	保健	①	黒板に明記されていた。
				②	広告を調べ、生徒から出てきた意見（効果のエビデンス、パーセンテージ）が本時の目標を達成するものだった。「架空広告」が先生の作った、という意味か、偽物のという意味か、どちらなのか気になった。
				③	食品に関わる法規に関して、制定のきっかけとなった出来事と結びつけていたのがよかった。クラスであらかじめお菓子を持ち寄るよう指示していた。
				④	スライドで要点、関連する資料を見せていて、スムーズに前半部を進めることができていた。
				⑤	Classroomやクロムブックを利用していた。資料の提示の仕方に幅があった。
41	11月5日	保健	保健	②	体育科の先生はＩＣＴ機器の活用に慣れていて手本となる授業だと思った。各班にタブレット端末がなければ成立しない授業だった。
				③	生徒が各自持ち込んだ菓子に記されている添加物についてネットで調べる。教師の作成した架空の広告を各班に送り、それについて班内で話し合う。ネット広告を１つ選ばせ、それをネタに話し合う。
				⑤	最後の発表のところで画像を共有したうえで班の意見を述べさせるという手もあると思った。
42	11月5日	保健	保健	②	広告を読み取る場面で、架空→実際と練習したことにより、生徒の思考や判断が強化されて、実際の広告を読み解くのがスムーズだった。
				③	グループ活動が活発なので、全員が意見を出し合ってそれぞれの思考を深め合うことができていた。
43	11月5日	保健	保健	①	パワーポイントと自作プリントを使用した授業だったが、復習の場面でもパワーポイントを使って効率的に行われており大変良かった。ただ、本時の内容をプリントに記入させる場面では、もう少し時間を確保した方がよいのではと感じた。
				③	後半はＩＣＴ機器を効果的に活用して生徒の活動の場面を多く設定しており良かった。４～５人のグループでの話し合いだったが、一人一台配布して使用させるよりも学習効果があった気がする。
				⑤	食品の安全を守る活動を扱った授業であったが、日常生活で遭遇している誇大広告の問題点や、それに対処する姿勢のあり方にまで触れており深い内容の授業であった。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

44	11月5日	保健	保健	②	食品の安全に関する情報について、注目して欲しいキーワードや添加物など、教師側が指示しがちになることが多いが、生徒の視点で調べ考えさせることで、積極的にキーワードを探そうとしたり、添加物についても気をつけなければいけないものだけでなく、栄養としての添加されているものにも注目し、発展させる姿もみられた。
				⑤	行政の立場と自分たちの立場といったように、視点を明確に分けたことで整理しやすいと思った。
45	11月9日	芸術	美術Ⅰ	①	カリグラフィーについて 本時で大体どこまで達成できれば良いか指示がきちんと出されていた。
				②	カリグラフィーのペンを自作するには、どのような形にすれば良いのか？どのようにペンを動かしたら良いのか？先生のチョークを使った見本を見ながら考えつつ自分の名前を書いていた。
				④	ペン先の図解、カリグラフィーの罫線に大きくチョークでペンの動かし方が説明され、制作の想像ができるよう工夫されていた。
				⑤	面白そう、楽しそう、早くやりたい等の声があり、非常に意欲的な姿を見ることができました。
46	11月13日	芸術	美術Ⅰ	①	常に提示されている。
				②	テーマを予想したり、最後のクイズも頭を使う内容だった。
				③	生徒が考えていることがかなり深かったので、今までの学習（自分で制作するときも、観賞するときも）考える習慣がついているのだと思う。
				④	見やすい。
				⑤	何を答えればいいのか指示が不明確なときがあった（グループで話した後の発表とクイズも２人で同じのを選んで考えるのか紙だけ共有で別々でよいのか） 生徒の作品を見て意図を聞くのがおもしろかった。
47	11月13日	芸術	美術Ⅰ	②	文様が何をモチーフにしているのか、何に使われているのか、非常に面白かった。生活と密接に結びつき、かつ実用的であることがよく分かる教材だったと思う。生徒の想像力にも驚いた。
48	11月13日	芸術	美術	①	黒板に明示されていた。
				②	グループで文様に込めた作者の意図を読み取るなかで、文様に新しい意味づけを発見し、作者がそこに共感するなど、一人ひとりが考えを深化していくとても面白い授業だった。
				③	自分が感じたことを、自分の言葉で的確に説明できている。
				⑤	一つの文様から生徒がオリジナルのストーリーを作っていて、その豊かな感性に驚かされた。
49	11月13日	芸術	美術Ⅰ	②	例を出してしまうと生徒が自由に発想しにくくなるので、説明は最小限に言葉を選びつつ工夫していたと感じた。
				③	ワークシートの２と３を逆にして、制作者が見えない作品で練習してから制作者の前でコンセプトを考えてみても、もっと活発にできたように思えた。
50	11月4日	家庭	家庭基礎	①	常に掲示。
				②	同じ作業に３回挑戦させることで、各自に改善・工夫の余地がある。多くの生徒は上達していた。
				③	平易な言葉で簡潔に指示。
				④	大きい、見やすい。文字、図、デモンストレーションと複数の手段で、縫い方を示している。指示の上で、ユニバーサルな授業になっている。板書と同じ説明は、各グループの作業台の上どちらにも置いてある。
				⑤	グループは毎回変わる。できないときに意思表示できるようになることを重視している。基礎的な実習だったが、競争にすることで、最初から簡単にできる生徒も意欲的に取り組んでいた。先生の位置が変わり、後ろにいるときは全員が後ろを見て説明を聞いていた。
51	10月16日	MDS基礎	MDS基礎	①	興味深い課題だった。
				②	生徒の発想が豊かで、現実的でない部分があるにしても面白かった。
				③	各班の発表に対する評価・アドバイスを全員入力していたが、結果をどう使うのかと思って見ていた。発表の際は生徒同士のやりとりがなかったので、結果を見ながらグループで話し合わせ、振り返らせるという手もあったかと思う。
				⑤	こうした課題研究はテーマ設定が大仕事だと良く聞きます。そのあたりを丁寧に、助言を与えながら進めていると感じました。
52	10月20日	MDS基礎	MDS基礎	②	各グループの発表の後、先生方からの助言、問いかけについてそれぞれ深く考えているようであった。
				③	生徒同士の評価はパソコン上で行われていた。

令和２年度　横手高等学校公開研究授業実施要項

研修部

１　目　　的　近隣の小・中・高等学校・支援学校の教員に授業を公開し、意見を交換し合うことで、今後の授業改善に役立てるとともに、校種間の連携の在り方を考える。

２　研究テーマ　答えが一つではない事柄を多様なプロセスを通して探究する態度を育てる

３　期　　日　令和２年１０月１４日(水)～１１月１３日(金)（２２日間）
※第２回校内授業参観月間と同期間、期間内に各教科で研究授業日時を設定する

４　公 開 授 業　各教科１つ以上を設定

期日	校時	教科（科目）	単元名・題材名	対象	場所	授業者	当日の協議会
10月14日（水）	5	数学（数学Ｂ）	第3章数列 第2節いろいろな数列 8いろいろな数列の和（群数列）	2年4組	24HR教室	木元大輔	無
10月20日（火）	4	ＭＤＳ基礎	企画書の発表②	1年4組	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ室	鈴木亘 今野栄一	無
11月 5日（木）	2	保体（保健）	社会生活と健康（食品の安全を守る活動）	2年6組	26HR教室	齊藤孝弘	無
11月 6日（金）	4	外国語（コ英Ⅱ）	Lesson7 Malala's Fight for Education	2年5組	25HR教室	藤原誠	無
11月10日（火）	3	国語（古典）	源氏物語	2年6組	26HR教室	成田陽香	４校時
11月10日（火）	3	地歴（日Ｂ）	武家社会の成長	2年5組選択者	25HR教室	濱田風香	４校時
11月12日（木）	4	理科（生物）	遺伝現象と物質	2年1組	21HR教室	髙橋里実	５校時
11月13日（金）	5	芸術（美術Ⅰ）	文様の制作	1年3組選択者	美術室	松井麻美	６校時

５　校外からの参観者（９名）

参観者氏名（教科）	所属	参観授業教科	授業実施日	校時	協議会
鈴木　健夫	本校定時制	数学	10月14日（水）	5	
照井　晴美	横手清陵	数学	10月14日（水）	5	
照内　咲子	横手城南	数学	10月14日（水）	5	
萩原勢津子	横手清陵	英語	11月6日（金）	4	
武藤しのぶ	横手明峰中学校	英語	11月6日（金）	4	
鈴木　真弓	横手市教育委員会	英語	11月6日（金）	4	
小番　　悦	平成	国語	11月10日（火）	3	不参加
泉田　　健	横手清陵	地歴	11月10日（火）	3	参加
糯田亜希子	横手城南	美術	11月13日（金）	5	不参加

国語科（古典Ｂ）学習指導案

日　　時：令和２年１１月１０日（火）３校時
指　導　者：成田　陽香
ク　ラ　ス：２年６組（４２名）
使用教科書：『新精選古典Ｂ（古文編）』（明治書院）

１　単元名　　読み継がれる物語の魅力について考える（『源氏物語』「光源氏誕生」）

２　単元の目標

（１）作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら作品を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察しようとしている。（古典探究・エ）【関心・意欲・態度】
（２）作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら作品を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。（古典探究・エ）　【読むこと】
（３）文や文章の組み立て、語句の意味を理解する。　【知識・理解】

３　単元と生徒

（１）教材観

『源氏物語』は平安時代中期に紫式部によって書かれた物語である。主人公光源氏を通して当時の宮廷や恋愛の様子などが描かれており、読解のためには当時の貴族社会の理解が必須である。また、「もののあはれ」を基調としており、後世の作品に与えた影響は大きい。そのような作品を一部ながら読むことは、今後学習する古典作品の理解を深めたり、生徒自身の情趣の心を養ったりするという点で意義があると考える。

また、現代に至るまで数多くの作家によって翻訳、翻案されているため、比較するという活動を通して表現方法や内容の理解を深めることに適した教材であると考える。

（２）生徒観

文型のクラスであり、ある程度の文法知識は定着している。議論を通して読解を深めることに積極的な生徒が多い。また、日本史など他の授業で学んだことを活用しようとする態度もある。各々が持つ考えや知識を生かしつつ、読みを深化するための視点を身につけさせていきたい。

「物語」は『伊勢物語』『竹取物語』『大鏡』を学習している。また、複数の資料を読む活動は、今年度『枕草子』にて『紫式部日記』を提示し、清少納言の人物像を捉えるというものを行った。

（３）指導観

当時の社会背景について資料集などで確認しながら、重要語句をおさえて概要を理解させる。そのうえで、より言葉や展開にこだわって複数の作品を比較する活動を通して、時代や国を越えて読まれている作品の魅力を分析させたい。

４　単元の指導　　【全９時間】

１　「光源氏誕生」について、重要語句や当時の社会背景に注意して現代語訳する。（３時間）
２　「光源氏誕生」（『源氏物語』の冒頭）における表現の工夫を、読み比べを通して分析する。（１時間）　【本時】
３　「小柴垣のもと」について、重要語句や和歌に注意しながら現代語訳する。（４時間）
４　「小柴垣のもと」から、光源氏の人物像について考察する。（１時間）

５　本時の評価

関心・意欲・態度	読むこと	知識・理解
文章の構成や展開を確かめ、文章の内容にふさわしいか、またどのような効果があるかを考察しようとしている。	文章の構成や展開を確かめ、文章の内容にふさわしいか、またどのような効果があるかを考察している。	古文を読むことに役立つ語句や社会背景、文法の決まりを身につけている。

６　本時の計画

（１）本時のねらい

『源氏物語』冒頭を読み比べることで、表現や展開の工夫について考える。

（２）展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 １０ 分	・単語の確認をする。 ・「光源氏誕生」第１段落のあらすじを確認する。 ・本時の学習課題を確認する。 学習課題：『源氏物語』冒頭を読み比べ、表現や展開の工夫について考える。		
展開 ３０ 分	発問：翻訳・翻案作品の特徴的な表現は、読者に対しどのような効果を生むか？ ・グループで担当資料を決める。 ・原文や他の訳と比較して特徴を探す。【個人→グループ（ジグソー法）】 ・特徴的な部分は、読者に対しどのような効果を生むか考える。【個人→グループ】 ・もとのグループで、担当資料について説明する。【グループ】	・悩んでいる生徒に対しては、「もしもその記述がなかったら」など声をかけて支援する。 ・必要に応じ、便覧や辞書などを参考にさせる。 ・もとのグループで説明することを意識させ、メモを積極的にとるよう声をかける。	文章の内容にふさわしい構成や表現の技法かを考察している。【観察、ワークシート】 積極的に意見を交わそうとしている。【観察】
まとめ １５ 分	・共有した分析をもとに、自分が一番評価する翻訳・翻案作品を選び、その理由を書く。【個人】 ・意見文を共有する。【グループ→全体】	・評価する根拠が明確な文章になるよう声をかける。 ・根拠が明確かを意識して発表を聞かせる。	根拠を明確にして意見文を書いている。【観察、ワークシート】 積極的に意見を交わそうとしている。【観察】

【使用作品】１９３８年　与謝野晶子訳（青空文庫（底本は１９７１年「全訳源氏物語上巻」角川文庫））
１９６４年　谷崎潤一郎訳（１９８７年「源氏物語全」中央公論社）
１９９５年　橋本治訳（１９９５年「窯変源氏物語１」中央公論新社）
１９９６年　瀬戸内寂聴訳（１９９６年「源氏物語　巻一」講談社）
２０１７年　角田光代訳（２０１７年「源氏物語　上」河出書房新社）

令和２年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（国語科）

記録者　成田　陽香

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月１０日（火）１０：５０～１１：４５（３校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　２年６組教室
対象生徒：２年６組（４２名）
科 目 名：古典Ｂ
単 元 名：読み継がれる物語の魅力について考える（『源氏物語』「光源氏誕生」）
授 業 者：成田　陽香

【研究協議会】

日　　時：１１月１０日（火）１１：５５～１２：５０

Ⅱ　研究協議会参加者

今入直樹、川越真紀子、松江正彦、能美政通、古谷祥多、成田陽香（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・『源氏物語』は現代までに国内外を問わず翻訳、翻案作品が存在する。授業で原典を読むことだけに終始することは惜しいと考え、５つの現代語訳を取り上げることにした。
・『源氏物語』の魅力を探るにあたって、光源氏と周囲の人々の人間関係や数々の和歌などの内容に触れることは不可欠であるが、今回授業では主人公光源氏もまだ生まれていない冒頭部分のみを扱う。そこで、内容に加えて言葉や構成に注目して各翻訳、翻案作品の特徴に迫ることを目的とした。また、作家たちの優れた言葉の用い方や構成の工夫に触れることは、読みを深化させるための観点の獲得や、生徒自身の表現力の向上にも繋がると考えた。
・グループによって話し合いの深まりに差があった。議論を深めるような問いをいくつか用意しておくべきだった。
・グループでの報告後、まとめとして個の活動を行わせたが、時間が確保できず中途半端に終わってしまった。今回の授業に限らず、グループ活動を行った後にじっくりと個で考えさせる時間が確保できるような時間配分、活動内容を計画することが課題である。

Ⅳ　参加者からの感想

・生徒が活発に話し合っていた。班によって観点は異なるが、深く話し合うことができていたところが多い。
・日本語の絢爛豪華さを感じさせられた。
・２時間で扱っても良いような内容だと思う。
・比較の観点について焦点を絞ったほうが良いのではないか。原文との比較なのか、訳と訳の比較なのか。なにをもって「特徴」とするのか。あるいは、訳すべてではなく２つに絞って差異を考察させても良いかもしれない。観点が明確であれば、時間配分の問題も解決されるか。
・文体の特徴を捉えるという活動に加えて、なぜその文体が評価されるのかを考えさせてもいいのではないか。
・いちばん新しい角田光代訳（２０１７年）を評価する生徒が多かったが、単になじみのある言葉で読みやすいから、という理由も大きいだろう。それは『源氏物語』の表現の魅力とは別の視点になってしまうのではないか。
・はじめは訳者や年代を伏せて読ませても良かったかもしれない。瀬戸内寂聴訳（１９９６年）については、瀬戸内寂聴本人の印象に影響された意見もあった。
・訳のつながりに触れても良かったかもしれない。最初の与謝野晶子訳（１９３８年）をその後の作家が踏まえていないはずがない。現に橋本治（１９９５年）が用いた「嫉妬の焔」という言葉は与謝野訳の「嫉妬の焔」を受けているだろう。
・そもそも『源氏物語』を授業で扱う意味とは何か。作品の受容については、儒教的な面からの批判的視点や本居宣長による評価も関連するのではないか。扱っても面白いかもしれない。

Ⅴ　授業者からの補足

次時に、「自分が一番評価する訳」について、価値基準や根拠を明確にして記述する活動を行った。提出された生徒の意見では、一番新しく言葉になじみがある角田光代の訳を評価する意見が多かった。ただしその理由は「新しいがゆえの言葉のわかりやすさ」だけでなく、「書き出しの文体の工夫」「唯一『桐壺』を明示している」など、他の訳と比較して表現に着目したものが多くあった。また、他の訳に関しても「「蔭」や「焔」という言葉は色がイメージできる」「常体と敬体、時制の工夫がある」「社会状況の説明があることで、「現代人が読む」ときにふさわしい」「説明されすぎないことで解釈の幅が広がる」「感情を表す言葉が多く主観的な文章」など、各々の価値基準を明確にし、適宜本文を引用しながら評価していた。

今回各訳やグループに対して思考を促すような発問を十分に用意できなかったが、それでも生徒達は各自が見つけた、あるいは話し合いのなかで獲得した観点をもとに訳の比較を行うことができていた。今後はそのような生徒が持つ力を伸ばすとともに、それを単元や作品にとどまらないあらゆる文章の読み書きで活用できるよう働きかけたい。

地理歴史科(日本史 B)学習指導案

授　業　日　　2020 年 11 月 10 日 3 校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　25 番教室
対象生徒　　2 年 5 組選択者
教　科　書　　『詳説日本史　改訂版』山川出版社
授　業　者　　濱田風香

1　単元名　「第 5 章　武家社会の成長　室町幕府の成立」

2　単元の目標

・幕府が衰退したことや庶民が台頭した理由について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。
【関心・意欲・態度】
・庶民の活動が社会秩序を揺るがすほどにまでなり得た理由について、時代背景をふまえ考察し、表現することができる。【思考力・判断力・表現力】
・室町幕府の政治や庶民の様子について、資料から読み取ることができる。【技能】
・室町幕府の性質を鎌倉幕府と比較したり、国内外の様子と関連づけたりして理解する事ができる。
【知識・理解】

3　単元と生徒

〇生徒観

男子 8 名、女子 19 名の計 27 名で、日本史 B を選択している生徒である。前単元「中世社会の成立」では武家がどのように勢力を伸ばし、政権を担うようになったのかや、公家・寺社・庶民などの生活の様子などに関心をもって学習していた。

「鎌倉時代をいくつかの時代に区分するとしたらどのように区分するか」という、答えが一つではない学習課題を設定した授業では、それまでの学習を根拠にしながら時代の転換点を見いだそうとしていた。

〇単元観

本単元は、山川出版社『詳説日本史　改訂版』の「第Ⅱ部　中世」の第 5 章「武家社会の成長　2 幕府の衰退と庶民の台頭」にあたり、学習指導要領の内容（2）「中世の日本と東アジア」(ウ)「中世社会の展開」を主な内容としている。京都に置かれた中央政権である室町幕府が次第に弱体化し、政治的にも地域的な要素が強くなっていった事に留意して、中世社会がどのように展開・変貌し、今日とのつながりが深い近世社会の特色が現れてきたかを考察することができる単元である。

〇指導観

室町時代はこれまでの時代とは異なり、庶民の力が急速に大きくなる時期である。このことを時代背景や東アジア情勢と関連させて指導していきたいと考える。

本時のねらいは、「倭寇とは何者なのか複数の資料から読み取ったことをもとに考え、表現することができる」である。一般的に倭寇は前期と後期に分けられ、前期倭寇が日本人や朝鮮人中心、後期倭寇が中国人中心、とされている。今回は特に前期倭寇について取り扱うが、その実態は「日本人」や「朝鮮人」といった国家や民族に注目した区分で定義されるというよりは、日本と朝鮮の狭間で暮らしている「境界人」であるという見解がある(1993、村井)。「倭寇とは〇〇人である」という定義ができない以上、その答えは一つとは限らない。多様な資料を読み取ることで日本からの視点のみではなく、朝鮮からの視点、倭寇と呼ばれる人々の視点から倭寇の実態に迫りたい。

4　全体計画　(計８時間)

鎌倉幕府の滅亡	１時間
建武の新政	１時間
南北朝の動乱	１時間
守護大名と国人一揆	１時間
室町幕府	１時間
東アジアとの交易	２時間(本時　1/2)
琉球と蝦夷ヶ島	１時間

5　協議の視点

(1)複数資料の読み取りから、倭寇が「日本人」や「朝鮮人」といった国家や民族による区分で言い表すことができない存在であると生徒が判断できていたか。

(2)本時の授業は、生徒が「倭寇＝日本人の海賊」という固定概念から脱却し、新たな見方を獲得するための手立てとして適切なものであったか。

６　本時の計画

(1)本時のねらい

・倭寇とは何者なのか、複数の資料から読み取ったことをもとに考え、表現することができる。

【思考力・判断力・表現力】

・答えが一つではない問いに対して、その解決に意欲的に取り組むことができる。　【関心・意欲・態度】

(2)展開

時間	学習活動	教師の支援	資料・評価
導入 15 分	・「阿只抜都」という名前から、この人物がどこの出身か予想する。 ・「海東諸国総図」から「当時の朝鮮人の日本近海に関する理解」を読み取る。 〈予想される生徒の反応〉 ・対馬や壱岐が大きく描かれているのは「倭寇」と呼ばれる人々の根拠地だったから。 ・琉球は当時琉球王国があり、重要だったから大きく描かれている。明と朝貢貿易をしていた。 ・船で交易に行くと倭寇がたくさんいて危険だったから小さな島もたくさん描かれている。多くの船が行き来していて認知されていた。	・当時の朝鮮人の日本近海に関する理解を地図から読み取るために、特に大きく描かれている対馬、壱岐、琉球に注目させる。 ・当時の朝鮮人の日本近海に関する理解について考えやすくするために、①対馬、②壱岐、③琉球がなぜ大きく描かれたのか、④なぜ多くの島々が描かれているのか、の４点に注目させる。 ・①～④の観点について根拠をもって予測するために教科書や資料集を使うよう指示する。	・『高麗史日本伝』 ・「海東諸国総図」 ・教科書 ・資料集
	学習課題：倭寇とは何者なのか。		
展開 33 分	・「阿只抜都」や済州島にいた倭寇に関する資料を読んで、なぜ倭の言葉で、倭の服を着て、海賊行為をしたのか、資料を基に考える。 〈予想される生徒の反応〉 ・日本人のふりをして他国との貿易をしやすくするため。 ・かつて元に攻められ、済州島の人々は貧しかったので食料を得るために倭寇に加わった。	・倭寇の姿に迫るために、阿只抜都に関する資料を使ったり、倭寇についてのクイズで知識を押さえたりする。 ・阿只抜都の出身地を推測するために、Google Earth を使用して島の地形を確認する。	・南原山城の戦い ・阿只抜都の出身地の人々の様子 ・Google Earth ・倭寇とは何者なのか、複数の資料から読み取ったことをもとに考え、表現することができている。【思考力・判断力・表現力】 ・答えが一つではない問いに対して、その解決に意欲的に取り組むことができている。【関心・意欲・態度】
まとめ 7 分	・本時の学習をまとめる。 倭寇とは「日本」と「朝鮮」の境界に暮らす人びとで、いずれの国、民族にも属しきらない人たちであった。		

〈参考文献〉『中世倭人伝』村井章介著(1993、岩波書店)

令和２年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（地理歴史科）

記録者　木村留衣子

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月１０日（火）１０：５０～１１：４５（３校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　２年５組教室
対象生徒：２年５組日本史Ｂ選択者
科 目 名：日本史Ｂ
単 元 名：第５章　武家社会の成長　室町幕府の成立
授 業 者：濱田　風香

【研究協議会】

日　　時：１１月１０日（火）１１：５５～１２：５０

Ⅱ　研究協議会参加者

泉田健（横手清陵学院高校）、高橋史、柴田ひろみ、木村留衣子、佐々木満、
阿部政任、打矢泰之、高橋賢右、濱田風香（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・多様な資料を使用して「倭寇は日本人で海賊」という固定概念から脱却し、新たな見方を獲得できる授業を目指した。
・地図から朝鮮人の日本に対する認識を読み取る活動では教科書や資料集の関連ページを探すのに時間がかかり(授業者の想定が甘く)、後の活動でじっくり考えるための時間が確保できなかった。要点は押さえられていた。

Ⅳ　参加者からの感想・協議事項

・広めのテーマ、攻めのねらい設定だった。地理・世界史との関連が特に深い分野だった。
・学習課題の提示のタイミングについて、どこで言うか、生徒は気づくかが問題だ。学習課題は最初に提示、中心発問は別でもよいのでは。
・一つ一つの資料が興味深く、提示資料が充実していた。最初の古地図や「阿只抜都」という名前だけでも１時間いける。価値観をゆさぶるための適切な資料、生徒の実態に合わせた説明やヒントは必要十分だったか。
・根拠を示して答えさせる習慣がついている。小さい問い一つあたりの時間が十分取れず、しっかり根拠を考えた答えにいたらないこともある。
・海賊である一面について、東アジアとの関係では、海禁に触れる必要があった。

・地図を題材にして、主観によって地図の描き方は変わるなど、科目を越えた学習につながる。中学での学習事項を踏まえて高校の内容にもっていく。出会貿易に触れるとよい。
・地図上の山がちと人・馬からの山がちは、違うスケール感であることに注意したい。
・教科書の記述をおさえつつ、資料読み取りを通して深めていくとよい。
・ＩＣＴの活用やプリントの資料についての注意点として、大きさ、媒体、提示するタイミングや見せ方を確認する必要がある。しっかり見えないと、生徒の関心を引き付けられない。

数学科（数学Ｂ）学習指導案

日　時　令和２年１０月１４日（水）　５校時
場　所　横手高校　２年４組教室
対　象　横手高校　２年４組　４０名
指導者　横手高校　木元　大輔

１ 単　元　名　　数学Ｂ　数列　いろいろな数列
２ 単元の目標　　簡単な数列とその和について理解し，それらを事象の考察に活用することができる。
３ 本時の学習活動　（8/9時間）
　(1)本時の目標　　群数列の項から項数を求めたり，項数から項を求められるようになる。
　(2)指導過程
　　{評価の観点･･･①関心・意欲・態度 ②数学的な見方・考え方 ③数学的な技能 ④知識・理解}

	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点，評価◎
導入 5分	群数列の特徴を捉える。	【例】　$\underline{1}\ \underline{1\ 2}\ \underline{1\ 2\ 3}\ \underline{1\ 2\ 3\ 4}\ \underline{1}$ $\underline{1},\underline{2,2},\underline{3,3,3},\underline{4,4,4,4},\underline{5},$ ･･･について， ・数列に区切りを入れることで，数列の特徴を把握しやすくなることを理解する。 ・第n群に属する数や個数を考察する。	◎群数列に関心をもち、数列の特徴を捉えようとしている。①
展開 45分		**グループ協議（１０分）→発表（１５分）**	
	与えられた項から項数を考察していく。	【例】(1)　$\frac{7}{25}$　は第何項か。 ・与えられた数が，どの群に属していて群の中で何番目なのか考察することで，項数を求める。	話し合いが進まないグループに対して，群の中の位置と全体の中での位置を意識させる。
	与えられた項数から項を考察していく。	【例】(2)第100項を求めよ。 ・第100項の数が，第n群に属していると仮定して，第1群から第n群の最後の数までの個数に着目することで，第100項がどの群に属しているか考察し，項を求める。	話し合いが進まないグループに対して，第n群に属していると仮定して考えるように指示する。
		個人での問題演習（１０分）→発表（１０分）	
		【演習１】$\underline{1}\ \underline{1\ 2}\ \underline{1\ 2\ 3}\ \underline{1\ 2\ 3\ 4}\ \underline{1}$ $\underline{2},\underline{3,3},\underline{4,4,4},\underline{5,5,5,5},\underline{6},$ ･･･について (1)　$\frac{78}{99}$　は第何項か。 (2)　第100項を求めよ。	◎第n群の個数を活用して群数列の項について考察し，具体的に項や項数を求めることができる。②③
		【演習２】 1 ｜ 3,5 ｜ 7,9,11,13 ｜ 15,17,19,･･･｜･･･ 第n群が2^{n-1}個の数を含むように分けるとき (1)　第11群の最初の項の数を求めよ。 (2)　301は第何群の何番目に並ぶ数か。	演習１のみ答え合わせをして，演習２は次回の授業で確認する。
整理 5分	群数列の解法手順を確認する。	【群数列の解法手順】 ① 数列の特徴を見る ② 区切りを入れる ③ 第n群の個数と数を書き上げる ④ 群に結びつけて問題を解く 数　→　第○群の△番目　→　第n項 数　←　第○群の△番目　←　第n項	
	次回の授業の内容を確認する。	【次回の授業】 ・演習２の答え合わせ ・教科書p95　応用例題5　練習35 ・教科書p96　問題13番	

令和２年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（数学科）

記録者　木元　大輔

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１０月１４日（水）１３：３０～１４：２５（５校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　２年４組教室
対象生徒：２年４組
科 目 名：数学Ｂ
単 元 名：第３章　数列　　第２節　いろいろな数列　「群数列」
授 業 者：木元　大輔

【研究協議会】

日　　時：１０月１４日（水）１７：００～１７：３０

Ⅱ　研究協議会参加者

塩谷　太、鈴木　亘、堀川　貴絵、武塙　章太、芳賀　崇、
佐々木一也、神崎実香子、木元大輔（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・群数列の解法を定着させる目的で授業を構成したため、少し丁寧すぎたかもしれない。
・普段の授業では、教科書の例題を解説して問題演習という流れだが、教科書の問題の難易度が少し高いため、群数列の特徴をつかみやすい問題を選んで生徒に解かせた。
・次回の授業ではもう少し難易度を上げた問題を扱い、上位者の力を伸ばしていきたい。

Ⅳ　参加者からの感想

・丁寧な授業だった。教科書よりも群の存在に気づく題材で良かった。計算方法よりも考え方に焦点をあてていて良かった。青いチョークは見えづらかった。
・プロジェクターを用いていて参考になった。生徒に解答の根拠を質問していて、考えさせる授業だった。別解の紹介があれば、もっと面白いと思った。
・群数列は、生徒が解きづらい問題であるので、表や図を用いて視覚に訴えかけると効果的。
・数列に区切りを生徒自身に入れさせることで、群数列の有用性を生徒に認識させていた。解法の手順を最後にまとめていて、生徒が振り返りやすいと思った。
・群の仕組みがよく分かる題材で良かった。
・字がきれいで板書がよくまとめられていた。説明で書いた図も見やすかった。グループをもっと活用した方がいい。センター試験や模試の問題も紹介してもいいと思う。

理科（生物）学習指導案

日　時　令和２年１１月１２日（木）４校時
場　所　２年１組教室
対　象　２年１組理数科３０名（男子１５名、女子１５名）
教科書　啓林館「生物」
授業者　髙橋　里実

１　単　元　名

第１部 生命現象と物質　第３章－１　遺伝情報とその発現

２　単元の目標

ＤＮＡの複製、遺伝子発現のしくみ及び遺伝情報の変化を理解させる。

３　生徒の実態

理数科目への関心が高く、意欲的に学習している。クラス全体として互いに相談したり、教えたりしながら学習テーマを理解しようとする姿が見られる。

４　単元の指導目標

ＤＮＡの構造と半保存的複製について（１時間）
ＤＮＡの複製のしくみとテロメアについて（１時間）
遺伝子の発現について（２時間）　●本時
遺伝情報の変化（１時間）

５　単元の評価規準

A　関心・意欲・態度	B　思考・判断・表現	C　実験・観察の技能	D　知識・理解
DNA の構造，遺伝情報の複製･転写･翻訳のしくみを、原核生物と真核生物とで異なる点について調べ、教え合おうとしている。	DNA の複製の仕組み，遺伝子発現の仕組み（転写，スプライシング，翻訳）を考え、教え合うことができる。	コラーナが行った実験の原理を使って，コドンを解読することができる。	セントラルドグマにそって転写と翻訳に関連する遺伝情報とその発現のしくみがわかる。

６　本時の学習

(1)　学習目標

既習事項を用いて発展的な問題を解き、教え合いながら、遺伝子発現のしくみを確認する。また、１塩基の変異が遺伝情報に影響し、重大な病気の原因となることについても考える。

学習テーマ
ＤＮＡの塩基配列からタンパク質が合成される過程

(2)　指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 （５分）	・前時の復習 タンパク質合成の過程を動画で確認する	・真核生物のタンパク質合成の過程をペアワークで確認させる。	
展開 （１５分）	・ＤＮＡ塩基配列からアミノ酸配列を読み解く２題の問題のうちの１題を担当して解く	・担当する問題を決めさせる ・さまざまな方法で調べながら自力で担当の問題を解かせる	時間内に答えを導けるよう取り組んでいる（A）
（１０分）	・同じ問題を解いた人と確認する	・解決できなければ、時間を延長したり、教え合う範囲を広げさせたりする	分からない点を相談したり、教えたりし合っている（A）（D）
（１０分）	・ペアの相手に問題の解説をする	・解決できていないペアに助言する	考え方を説明できている（B）
まとめ （１５分）	・置換、欠失、挿入などの塩基の変化が生じることによる影響について	・遺伝子の塩基配列の変異が病気につながる例を紹介する	評価表で本時の振り返りを記入できている（D）

令和２年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（理科）

記録者　髙橋　里実

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月１２日（木）１１：５５～１２：５０（４校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　２年１組教室
対象生徒：２年１組
科 目 名：生物
単 元 名：第１部　第３章－１　遺伝情報とその発現
授 業 者：髙橋　里実

【研究協議会】

日　　時：１１月１２日（木）１３：００～１３：３０

Ⅱ　研究協議会参加者

小西弘麿、岡本由佳子、細谷進、小野寺庸、瀬々将吏、後藤直地、古関直哉（横手高校）
髙橋里実（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・仙台三高との合同研究授業での「教科書や資料集で調べられる用語などは、説明に加えて欲しい keyword として与え、生徒同士で説明させる」授業形態に感銘を受け、このクラスで４月から実践している。本時は、確認問題を解き合う時間だった。

Ⅳ　参加者からの感想

・視聴覚機材を積極的に活用していた点は良かったが、画面が小さすぎた。説明する時は、指し棒やポインターを使用する工夫をしたら良い。
・生徒がよく頭を使っていた。自分から知りたい、という状態を作れているのが良かった。問題の精選や準備が大変だったろうと思った。
・生徒は、最終的に解答を教えてもらいたいのではないか、と思った。
・教え合いの授業形態を実施できる雰囲気があった。動画の設定の仕方が、参考になった。
・ペアの相手に教えなくてはいけないから意欲的に学ぶ、生徒がいつか解かなくてはならない大学入試問題を取り入れている、英語の動画を見せる、評価表等、さまざまな要素が含まれた授業で衝撃的だった。
・生徒たちが楽しそうに問題を解いていて、講義式の授業が続いている自分の授業を見直すきっかけになった。

英語科「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

実施日時：令和２年１１月６日（金）４校時
場　　所：２年５組教室
対　　象：２年５組
授 業 者：藤原　誠
教 科 書：PROMINENCE Communication English Ⅱ

１　単元名　Lesson 7　Malala's Fight for Education

２　単元の目標

（１）マララさんの活動背景にある現状を理解する。
（２）世界が直面している数々の問題とその現状を理解する。
（３）現状問題を踏まえて、自分たちに何ができるかを考え、英語で発表する。

３　単元とCAN-DO形式での学習到達目標との関連

・説明文や物語文を読み進め、主題や主張を意識しながら概要を理解できる。
（２年後期：読むこと）
・理解した英文の内容について質疑応答できる。（２年後期：話すこと）
・理解した英文の内容を、即興で自分の言葉で伝えることができる。（２年後期：話すこと）

４　単元観

史上最年少でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの活動背景には、不条理に女性の差別を受け、教育の機会を奪われ、そして殺害の恐怖まで直面した幼少時代が影響する。彼女が教育を渇望する背景、そしてパキスタンだけでなく世界中の至る所で見受けられる諸問題に目を向けさせ、先進国と呼ばれる国で学ぶ生徒たちに何ができるのかを考えさせたい。

５　生徒観

男子１８名、女子２４名、合計４２名のクラスである。英語への関心が高い生徒が多く、予習・復習等の学習に熱心である。英語を用いる授業中の活動にも積極的に取り組んでいる。

６　単元計画（総時間　８時間）

１時間目：本単元の導入
２時間目：Part 1（内容把握・口頭による要約）
３時間目：Part 2（内容把握・口頭による要約）
４時間目：Part 3（内容把握・口頭による要約）
５時間目：Part 4（内容把握・口頭による要約）
６時間目：Communication Activity（世界の諸問題について話し合う）【本時】
７時間目：Comprehension（練習問題）、Grammar
８時間目：Exercises（練習問題）

7　単元の評価規準

Ａコミュニケーションへの関心・意欲・態度	Ｂ外国語表現の能力	Ｃ外国語理解の能力	Ｄ言語や文化についての知識・理解
ペアやグループ活動に積極的に参加して自分の考えを伝えようとしている。	世界の現状問題について自分の考えを簡潔に英語で書いたりお互いに伝え合うことができる。	スピーチの内容を的確に聞き取ったり読み取ったりすることができる。	数値やグラフから世界が直面している現状問題について適切に理解している。

8　本時の学習

（１）目標

ＳＤＧｓの目標を通して、世界が直面している現状問題を踏まえて自分たちに何ができるかを考えて、相手に伝えることができる。

（２）指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (8)	Warm-up ・プリントを用いてペアで３分間質問したり、それに対する回答をする。	・活動について的確に指示する。	A
展開 (37)	・世界が抱える問題についてペアで考える。 ・学習課題を理解する。	・世界の問題を生徒に挙げさせる。 ・学習課題を確認する	A
	学習課題：What should we do to solve the problems in the world?		
	・ＳＤＧｓの目標を通して世界の現状問題を考える。 ・現状問題を解決するために自分たちに何ができるかを考える。 ・グループ内で発表し考えを共有する。 ・クラス全体で発表する。	・活動について的確に指示する。 ・机間指導により観察しながら必要に応じて支援する。	B B
まとめ (10)	・自分の考えをまとめる。 ・ペアで交換してチェックする。 ・自己評価シートを記入する。	・ワークシートの提出を指示する。 ＜評価＞ワークシートを回収して評価する	

令和２年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（英語科）

記録者　奥劦屋景子

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月６日（金）１１：５５～１２：５０（４校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　２年５組教室
対象生徒：２年５組
科 目 名：コミュニケーション英語Ⅱ
授 業 者：藤原　誠

【研究協議会】

日　　時：１１月９日（木）１３：３５～１３：５５
場　　所：演習室１

Ⅱ　研究協議会参加者

嶋田仁、武田誠健、大塚のぞみ、沓澤信宏、渡辺伸吾、佐藤寿子、奥劦屋景子（横手高校）
藤原誠（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

今回のテーマである「答えが一つではない事柄を多様なプロセスを通して探究する態度を育てる」に添って授業を行った。教科書の内容を踏まえて、SDGs のことについて資料を読み取り、その場で自分の考えを述べるという活動を行った。実際に授業を行ってみて、普段から自分の意見を述べたりする機会をもっと与えるべきであったと思っている。

Ⅳ　参加者からの感想

渡辺先生
・SDGs に関する資料が authentic な英語の資料でよかった。
・本物の資料であったが、生徒が情報をうまく拾えていなくて残念だった。
・１グループに１つの資料を配付し（実際は１つのグループに複数枚配付し、生徒１人１人に別々の資料が配付された）、グループで協力して情報を理解させ、そのあとシャッフルしてもよかった。

大塚先生
・１つのグループに１つのシートでもよかったかもしれない。
・普段からのコミュニケーション活動の実践の必要性を改めて感じた。

武田先生
・授業の前半で黒板の画面を使って本文に関するスライドを見せていたが、その際にそのスライドを使って生徒とやりとりしながら本文の内容確認をしてもよかった。

奥劦屋
・SDG s の資料は１枚の資料の中にたくさんの情報があり、生徒はある情報とある情報の区切りが分からなかったようなので、番号をふるなどして加工すると生徒も扱いやすかったかもしれない。

沓澤先生
・SDGs の資料１枚の情報量が多い。１つのグループに１枚でもよかったと思う。
・sharing→writing の流れは意図的なものか。予め自分の意見をそれぞれ書いてきておいて、それを share という流れもありだと思う。

佐藤先生
・SDGs は前任校でも扱われていて、なじみがあるものであった。
・SDGs のように初見のものを見て、その場で読み取りという活動は力がつくと感じた。
・sharing→writing という流れは意図的なものか。

嶋田先生
・画面で授業のプリントが映されていたが、先生の求めた解答のレベルを示すためにも、時間の短縮のためにも、それぞれの模範解答例を画面上に示した方がよかった。
・資料の提示の仕方や順番について。
・SDGs の資料は他の先生が言うようにグループに１つだとスムーズに進んだとは思う。
・authentic な教材で内容が challenging であったので、生徒にとって理解しづらい単語や表現などは予め取り上げて説明するなどしてもよかった。
・本文に関するスライドをみせつつ、内容確認などの生徒とのインタラクションを行ってもよかった。

保健体育科（科目名　保健）学習指導案

日　　時　　令和２年１１月５日（木）２校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　２６ＨＲ
対象生徒　　２年６組（普通科４２名）
使用教材　　教科書名 最新高等保健体育 改訂版（大修館書店）
指 導 者　　齊藤 孝弘

1　単元名　　３．社会生活と健康

2　単元の学習目標

①　社会生活と健康について、社会生活における健康の保持増進には、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策が重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。　（意欲・関心・態度）

②　社会生活と健康について、社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。　（思考・判断）

③　社会生活と健康について、社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策についての基礎的な事項を理解している。　（知識・理解）

3　生徒の実態

男子１７名、女子２５名の文系の学級である。

保健学習では、ペアワークやグループワークなどの考えや意見を交換する活動に対して積極的な態度で取り組んでいる生徒が多い。前時には、食品の保健に関わる我が国の課題について取り扱っている。

4　単元の指導計画

食品の安全を守る活動　（２時間）　※　本時　２／2
働くことと健康　（１時間）
働く人の健康づくり　（1時間）
大気汚染と健康　（１時間）
水質汚濁、土壌汚染と健康　（１時間）
環境汚染を防ぐ取り組み　（２時間）
ゴミの処理と上下水道の整備　（１時間）

5　単元の評価規準

項目	ア.　意欲・関心・態度	イ．思考・判断	エ．知識・理解
内容	・環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について関心をもち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしている。	・環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について自分の学習や経験を元にしたり、資料や仲間の意見や考え方などを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断している	・学校や地域、労働の環境を健康に適したものにすること、食品の安全性を確保する必要があることを理解し課題解決に役立つ知識を身に付けている。

6　本時の目標

①食品に関わる健康被害の防止と健康の保持増進のための役割について理解できる。
②食品やサプリメントの広告や流行に関して合理的な根拠をもとに分析・判断ができる。

7　本時の指導に当たって

食品に関わる健康被害の防止と健康の保持増進については、食品を選択する消費者の役割も大切であること、食品やサプリメントの広告に掲載されている情報を分析・判断するためには批判的な思考が重要であることを確認させたい。

8　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 ５分	1　前時の復習・確認 2　本時の学習課題の確認 **学習課題：　健康食品ブームについて考えてみよう**		
展開Ⅰ １５分	3　食品の保健に関わる行政・生産者・製造者の役割を知る。 （１）食品に関わる行政 （２）生産・製造者の役割	・各種の法規の内容と保健所検疫所の役割について理解させる ・食品表示義務について理解させる ・「危険分析重要管理点」HACCPについて理解させる	
展開Ⅱ ３０分	4　グループで学習する。 **具体的な発問：　食品の安全に関する情報を活用するには** （１）食品添加物を調べる （２）架空広告の分析する （３）実際の広告を分析する	・食品に表示されている添加物を調べ、種類と効用について理解させる ・個人で課題をチェックする ・グループ内で、それぞれ考えたことを発表させ、吟味させる	・食品やサプリメントの広告に関して、合理的な根拠をもとに分析・判断ができている（観察、ＷＳ）
本時の振り返り ５分	5　ワークシートに本時のまとめを記入する。	・学習のポイントをまとめる	・行政や生産・製造者による食品の安全のための対策について記入している（WS）

令和２年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（体育科）

体育科主任　齊藤　孝弘

令和２年１１月５日（木）に本校において保健体育科の公開研究授業が実施され、１１月１０日（火）８時５０分から９時３０分に研究協議会が開催された。報告は次の通りである。

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月５日（木）　９：４５～１０：４０（２校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　２年６組教室
対象生徒：２年６組
科 目 名：保健
授 業 者：齊藤孝弘

【研究協議会】

日　　時：１１月１０日（火）　８：５０～９：３０

Ⅱ　授業者からの報告・反省

前半では、食品の安全に関わる役割について、法規や生産・製造方法等を理解させるよう授業を展開したが、もう少し行政や生産者の事例を取り上げ詳しく解説する必要があった。

後半は、食品に掲示されている食品表示から食品添加物の種類と効用について読み取ることや、広告に掲載されている商品の情報を分析することで合理的な根拠をもとに思考・判断する力を身に付けさせることができたのではないかと考える。

今回は、グループ学習や調べる活動に時間を多く割り当てたため、本時の振り返りの時間が足りず知識の定着に関しては不十分であった。

ＩＣＴ機器を活用する授業では、通信が悪くなった場合にスムーズに調べたり、書き込んだりすることができない状況を想定して時間配分を考え、身に付けさせたい技能に焦点を絞った学習活動ができるようにしたい。

Ⅲ　参観者からの感想

・広告を調べ、生徒から出てきた意見（効果のエビデンス、パーセンテージ）が本時の目標を達成していた。
・架空広告から読み解く視点を練習していたので、生徒の思考や判断が強化され、実際の広告を読み解く活動がスムーズだった。

・情報を手に入れる場面では、出された物をそのまま受け入れず、批判的な検討を加える力が身に付けられていた。
・情報を適切に判断して、活用する力が高まる授業であった。
・グループ活動が活発で、全員が意見を出し合ってそれぞれの思考を深め会うことができていた。グループ分けの人数も適切だった。
・食品に関わる法規に関して、制定のきっかけとなった出来事と結びつけていたのが良かった。
・資料の提示の仕方に幅があった。
・ＩＣＴの活用技術が高く、使い方がスムーズであった。

芸術科（美術）学習指導案

令和２年１１月１３日（金）第５校時（１３：３０～１４：２５）

対象：１年３組　１５名

場所：美術室　指導者　松井　麻美

１　単元名　版による文様の制作（デザイン）

２　単元の目標

（１）世界の様々な文様の意味や構成に対して興味関心をもち、自分のテーマとコンセプトを設定し、意欲的に制作することができる。

（２）独創的な視点や自由な発想により、試行錯誤しながらコンセプトが生きるアイディアを生み出すことができる。

（３）創意工夫しながら版をつくり、構図や構成、配色を考えながら刷ることができる。

（４）互いの作品について批評的な視点をもちつつ鑑賞し、自他の作品または既存の文様文化について、その良さや美しさに気づくことができる。

３　生徒観と単元観

対象クラスの美術選択の生徒は男子８名、女子７名の計１５名である。美術への興味関心が高く、制作時も試行錯誤しながら主体的に取り組む姿が見られる。本単元では、鑑賞活動と表現活動を同時に行いながら、文様に込められた様々な意味を考えた上で、それを反映した自分のオリジナルの文様を制作する。

４　本時の学習

（１）　本時の目標　他者の作品を鑑賞し、表現のおもしろさやうつくしさを味わうことができる。
世界の文様をもう一度鑑賞し、文様の持つ意味や効果について考えることができる。

（２）　本時の展開（９／９時間）

	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点、評価◎
導入 (5)	本時の流れを説明する。	ワークシートの記入の仕方を確認する。	今まで行った鑑賞活動と異なる方法のため、小グループで行う意味を意識させる。
展開 (40)	①グループで鑑賞活動をする(20) 学習課題　文様のもつ意味や装飾性について考えてみよう	指示された３～４人の小グループを編成する。 自他の作品について元になったモチーフや込められた意味、デザインの効果などについて話し合う。	◎他者の作品の創意工夫について考え、良さをあじわうことができる(D) 机間指導し、話し合いが活発になるよう支援する。
	②世界の文様を鑑賞する (20)	示された３つの中から１つ選び、モチーフや意味、なりたちなどについて考える。 何名かが発表して様々な意見を聞く。	◎制作を通して学んだことを反映させて、文様の意味をより深く考え、感じ取ることができる。（A・D）
まとめ (10)	文様制作のまとめの感想	制作･鑑賞を経てどのような視点を得ることができたか感想を記入し何名かが発表する。	◎制作から活動をふりかえり、次の制作に生かせるような視点をもつことができる。（A）

【評価　A：美術への関心・意欲・態度　B：発想や構想　C：創造的な技能　D：鑑賞の能力】

令和２年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（芸術科）

記録者　松井　麻美

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月１３日（金）１３：３０～１４：２５（５校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　美術室
対象生徒：１年３組（美術選択１５名）
科 目 名：美術Ⅰ
単 元 名：版による文様の制作
授 業 者：松井　麻美

【研究協議会】

日　　時：１１月１３日（金）１４：３５～１５：３０

Ⅱ　研究協議会参加者

深井　裕之　　糯田　亜希子

Ⅲ　授業者からの報告

・意味をもたせたオリジナルの文様をデザインするという内容は、ただ見た目の美しさ以外に自分なりにコンセプトを考え、それを反映させるという点において非常に難しい課題であったと思う。また、予定では制作よりもアイディアスケッチに時間をかけさせる予定であったが、ゴム版を彫ったり、布に押したりといった実制作は見た目以上に複雑な技術が必要であった。題材全体の時間配分は反省点として次の授業に活かしていきたい。
・本時の流れは普段の鑑賞活動よりも活動が小分けになっていたため、一部こちらからの指示が抜けてしまった部分もあった。しかし生徒個人の鑑賞、鑑賞者同士の話し合い、制作者との対話を通して、それぞれが様々な視点を得ることができたと思う。鑑賞しながら対話したり、ワークシートに記入したりする際も、見たままの事実を述べるだけではなく、自分の感じ取ったこと、考えたことが共有されていた。
・最後に世界の文様の鑑賞と、それに関する個人の考察を発表させ、その文様が生まれた根拠を地域、布地、色、文化等まで掘り下げ、さらにその文様が何に使われているのかまで考察することができる生徒が多数いたことに驚かされた。自分で一からデザインを考え、他者の作品に触れることでそのような視点がゆっくりと生まれていったのだと思う。

Ⅳ　参加者からの感想

○学習課題の提示・確認

・しっかり提示され見通しがもちやすく、生徒もこれからの授業展開や自分たちの取り組みが明確になっていた。

○思考判断

・非常に考えが深く、一つのデザインに３つの意味が込められているものがあった。しかもあとづけではなく計画的にあらわされていた。
・アイディアスケッチの段階では、考えが深すぎて美術的表現に落とし込めない生徒もいた。
・版づくりで素材や道具を上手く扱えない、細かな作業が得意でない生徒でも、発想と見栄えでカバーできるようになっていて､思考判断の部分を引き出しやすい題材設定になっていた。
・生徒が考えていることがかなり深かった。今までの学習（制作・鑑賞どちらも）考える習慣がついているのだと思った。
・文様のモチーフや何に使われているのかのクイズが非常におもしろかった。生活と密接に結びつき、かつ実用的であることがよく分かる教材だった。生徒の想像力に驚いた。

○言語活動

・グループ単位でよく話し合っている。発表の際も授業者が積極的な生徒を選んだのかと思ったが、そんなことはなく全員しっかりと考えをまとめて発言することができていた。
・何を答えればいいのか指示が不明確な時があった(グループで話した後の発表とクイズの時)。

○板書の工夫

・目標と活動内容が明確に示されていた。
・授業開始前に板書を終えていたので時間を有効に使うことができた。

○授業者の所感・感想

・授業者としては、ICT 機器の導入に伴い文様の制作もデジタルで処理するということもできるのではないかと考えたが、参加者の先生方からは手作りの雰囲気（テクスチャ等のアナログ感）が魅力的なこと、版画的表現はむしろ時勢的に貴重な作業でもあることから、デジタル処理を無理に導入しなくても良いのではないかという意見があった。
・版を布に押すことに苦戦した生徒も多かったため、トートバッグではなく包装紙などにしても良かったかという反省点にも、失敗できないものに色をつける緊張感も大事な制作のひとつであるというアドバイスをいただいた。また、包装紙であれば、他者にプレゼントするという意味が付随されてくるので、版を押す対象が変われば作品のテーマ性も変わってくると考えた。
・よく考えることが必要な題材であったが、生徒の能力が非常に高く面白い作品がたくさんあった。全体を通しても楽しんで取り組んでいる様子が見られた。

ＭＤＳ基礎　学習指導案

日　　時：令和２年10月20日(火)　４校時
実施場所：秋田県立横手高等学校　コンピュータ室
対象生徒：１年４組（34名）（男子18＋女子16）
指 導 者：鈴木亘、今野栄一

１．単元名　　データの収集・分析

２．単元の目標　　自ら関心のあるテーマ設定を行い、フィールドワークから適切なデータ収集や統計的な分析ができる。

３．生徒の実態　　生徒は素直で、真面目に授業に取り組んでいる。また、グループワークにおいては協力して作業を進めようとする姿勢が身に付いている。

４．単元の指導計画　班決め・テーマ決め（5h）本時5/5
アンケート用紙の作成（5h）
アンケートの依頼・発送作業（2h）
グループごとに中間報告・相互評価（1h）

５．本時の目標　　テーマ設定についてのプレゼンをすることで発表能力や聞く態度を養い、友人のアドバイスを活かしながらよりよいテーマ設定を行う。

６．本時の評価基準

項目	ア関心・意欲・態度	イ思考・判断・表現	ウ技能	エ知識・理解
内容	テーマ設定の話し合いや発表に積極的に参加している。	仮説をしっかりとたて、仮説に沿ったテーマ設定ができる。	情報機器を使って、グループで協力しながらテーマについての発表ができる。	仮説を実証できる統計検定やアンケート項目を適切に設定できている。

７．本時の展開においてキャリア教育の視点から特に重要なこと

前回のアドバイスを参考にテーマ設定のプレゼンすることで自己表現力を育成し、他のグループの発表を聞くことで新たな視点や考え方を学ぶ。

８．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 5分	ＦＴＤＣの流れを確認し、現在行っていている活動を確認する 本時の活動内容の確認	全体の流れを把握させながら計画的に作業させる	ＦＴＤＣの流れを把握している 【ア関心・意欲・態度】
展開 35分	相互評価シートへ入力する	良い点や改善すべき点を入力し、マイナス評価をつけないことを確認させる	各班の取り組みを理解し、適切なアドバイスができた 【イ思考・判断・表現】
	学習課題：横手に観光客を呼び込むためには?		
(10分)	班ごとに発表の分担を確認する	友だちの意見を聞きながら前向きな意見が出せる雰囲気をつくる	積極的に自分の考えを発表できている 【ア関心・意欲・態度】
(25分)	テーマ設定理由をわかりやすく説明し、使用予定の検定や仮説を明示する	発表ごとに評価シート入力し、各班がスムーズに発表できるようにする	わかりやすい発表ができた 【エ知識・理解】 【ウ技能】 今後の改善に活かせる提言ができた 【イ思考・判断・表現】
本時の 振り返り 15分	評価シートを提出する 本時の振り返りと次時の内容を確認する	リアルタイムで集計結果を表示し、解決すべき課題を確認させる	テーマ設定について、前回のアドバイスを反映させて更なる改善に取り組んだ 【ア関心・意欲・態度】

令和２年度　高等学校初任者研修報告

地歴公民科　濱田　風香

1. はじめに

初任者研修は、総合教育センター及び高校教育課による校外研修と、本校内で行われる一般研修及び教科研修により行われた。今年度は新型コロナウイルスの影響により一部研修が中止になったり、縮小されたりしたが、その中でも主だったものを取り上げ、以下にまとめた。

2. 辞令交付式・校外研修「教職基礎Ⅰ」

●実施日　令和２年４月１日(水)

●場所　　県庁第二庁舎・県地方総合庁舎

県庁大会議室によって行われた辞令交付式は、採用者が氏名点呼され、代表者が辞令を受け取る形式で行われた。その後、教育長職務代理者より講話をしていただいた。少子化が進む秋田県で、ふるさとを支える子どもの育成を担う立場にあることを改めて自覚した。

続いて総合庁舎にて、校種別オリエンテーションが行われた。

はじめに指導班の方より、教育公務員としての心構えについてお話していただいた。内容は、教員の失敗は生徒だけでなく教育会全体に悪影響を及ぼすということ、世間の厳しい目がある中で期待以上の成果を出さなくてはならないということであった。

次に管理班の方より、心構えや教員に求められる資質についてお話していただいた。内容は、どのようなときも教育に携わる人間であるという自覚をもつということ、常に学ぶ姿勢をもつということであった。加えて事故の未然防止と起きたときの初期対応についてもお話しいただいた。

高校教員になったという実感とともに、教育に関わることの責任を改めて感じる最初の研修であった。一方で、講師経験がない私にとっては、生徒に生きるために必要な資質能力を育成するということが具体的にどのような方法で達成できるかイメージが湧かず不安感もあった。試行錯誤しながら理念を達成できるように努力していきたい。

3. 一般研修「本校の経営方針及び教育目標」

●実施日　令和２年４月 14 日(火)

●場所　本校校長室

校長先生より、経営方針と教育目標についてお話ししていただいた。

今年度の重点目標は「高度科学技術社会を牽引する人材育成と進路志望の達成　すべての教育活動を通じて人材育成を図り、人格の形成と自己実現を支援する」である。Society5.0 の実現を目指す現代において、IoT ですべての人とモノとがつながり様々な知識や情報が共有され課題や困難を解決していく時代になることを踏まえ、前年度より刷新された。また、秋田県の進学校としての横手高校らしさを維持するためにも、生徒の進路志望の達成も重要視されている。実践指針として、すべての教育活動において「チャレンジ精神」を念頭に置くこと、生徒にチャレンジすることを促すだけではなく、教師自身もチャレンジすることを目標にしてい

る。難関大学の入試問題の研究をして授業を構成することも、教師のチャレンジの１つである。

今年度の重点目標を達成するための具体的な手立てとしては５点あげられる。本校で指針となる言葉である「青雲の志・天佑自助・剛健質朴」を含む「進路実現に向けた確かな学力の育成～青雲の志・天佑自助～」「心豊かでたくましい心身の育成～剛健質朴・文武両道～」のほか、SSH 指定校ならではの手立てである「課題研究活動を通した主体的な態度の育成」、そのほか「国際交流の活性化を通して情報活用力を含めた国際性の育成」、「人間尊重の精神及び公共の精神の涵養と規律ある生活習慣の確立」である。

「堅実で真面目」、これは横手高校に赴任し生徒と関わってみての横手高校生の印象である。堅実であること、真面目であることは全く悪いことではないが、生徒がもう一つ上のレベルになるためにはチャレンジすることが欠かせないと感じた。また、生徒にチャレンジするように促すだけではなく、教師自身もチャレンジして資質や能力を高めることが求められるということがわかった。1 年目の今年は授業やその他の指導で試行錯誤を繰り返しながら仕事をしていくが、仕事に慣れて以降も単に同じことを繰り返すのではなく、目の前にいる生徒に合わせた授業や指導をしたり、難関大学への進路希望を実現するために入試問題を研究したりすることが具体的に求められると考える。「青雲の志」という言葉は生徒だけでなく教職員にも向けられていると考え、自身の教員としての資質・能力の向上に努めたい。

また、「人間的成長あっての合格」という校長先生の話が印象的であった。大学受験を通して生徒が一人の人間として大きく成長できるような支援ができるように努力していきたい。

4. 校外研修「初任者研修講座Ⅲ期」

●実施日　令和２年６月 17 日(水)

●場所　秋田県総合教育センター

初任者研修講座のⅠ期とⅡ期は新型コロナウイルス感染症の影響で各校での研修となり、同期の先生方との研修はⅢ期が初めての場となった。

教科についての研修では、「ねらいと評価を一体化させた指導」についての講義・演習だった。「問い」は「ねらい」を達成するための一手段であるが、目の前の授業内容ばかりに気をとられ、これまでの自分の授業は「ねらい」に立ち返ることができていないように感じた。

午後からは「キャリア教育の充実」について、ご講話いただいた。キャリア教育は一つの行事で完結するものではなく、日々の授業や課外活動の場面で積み重ねていくこともものである。「社会における役割」を生徒が感じられるような指導をしていきたいと感じた。

5. 校外研修「特別支援学校訪問」

●実施日　令和２年９月 23 日(水)

●場所　横手支援学校

横手支援学校にて、特別支援教育について学んだ。

午前中は授業を見学した。様々な障害を抱えた生徒たちであったが、楽しそうに勉強している姿が印象的であった。生活・日常との関連や具体的な事象から抽象化することを普段の授業

から意識し、どの生徒にもわかりやすくなるような工夫をしていると感じた。また、勉強するのを嫌にさせないように気をつけている、という先生方のお話が印象的であった。

午後は学校説明と高等部の概要についての説明を伺った。熊谷教頭先生による、強みを活かした指導をして、生徒が「良かった」と言われる機会を増やすというお話が印象的だった。注意したくなるような生徒の行動には表面的にはわからない理由や背景がある可能性があり、一方的に注意するだけでは何も解決できない。注意する時は改善案も伝えることで、生徒はより良い行動を取ることができる。この点も今後留意して指導したい。

私も含め、障害をもつ人との接し方に迷う人がいると思うが、日常生活のなかで困難を感じる行動が異なるだけであり、その困難に合わせて力を貸し合えば良いだけだと感じた。先生方の話を聞きながら、そもそも支援学校とそれ以外の学校にわける現在の制度が「障害者」への偏った見方や考え方、接し方の戸惑いを生んでしまっているのかもしれないと思った。

高校も特別支援学校も、目の前の生徒の個性や背景を知ったうえで向き合い、社会人として自立した生活を送れるよう指導するという点は共通していると感じた。授業を通しての生徒指導や、休み時間などの些細な会話が信頼関係を作るうえで大切だと改めて思った。そのような関わりを通して生徒の個性を理解し、全員が責任感を持って活躍できる場を作りたい。

6. 校外研修「初任者研修講座Ⅴ期」

●実施日　令和２年９月２日(水)

●場所　秋田県総合教育センター

「中学校との関連を踏まえた授業作り」というテーマで、中学校社会科の先生も交えて模擬授業とその協議を行った。

はじめに中学校１年生の歴史的分野の模擬授業と、３年生の公民的分野の模擬授業を参観した。両者ともに個人の意見・考えを全体に共有するプロセスが丁寧で、予想→議論→発表→まとめという探究型授業の構造になっていた。１年生を想定した模擬授業では、導入部分で古墳の埋葬品を「？ボックス」にいれて、どのようなものがあるか取り出して見せるといった、発達段階に合わせた生徒の興味を引きつける工夫がされていた。その後の協議では内容の正確性や、資料の多さが話題になった。どのような資料をどのようなタイミングで使用するか、それを使ってどのように学ぶかという点を深めることが出来たと思う。

次に大館鳳鳴高校の先生と私が模擬授業を行った。クラゲチャートなどの思考ツールや指示の出し方など、中学校の先生ならではのアイデアをいただくことが出来た。私自身が苦手とするところで的確なアドバイスをいただくことができ、他校種の先生に授業を見てもらうことの意義を強く感じた。今後も機会を見つけ、他校種の授業を参観したい。

7. 校外研修「授業研修」

●実施日　令和２年10月14日(水)

●場所　秋田明徳館高校

秋田明徳館高校にて、定時制、通信制の高校の特徴や生徒の様子について学んだ。

例年であれば「生活体験発表会」の秋田県大会を参観するが、今年度は新型コロナウイルス

の影響により生活体験発表会が中止となり、去年の集録『鋼』を事前に読み、感想をまとめる形式となっていた。今まで定時制、通信制に通う生徒と関わったことがなかったため、どのような生徒がいて、どのように考えているのか分からないことが多かったが、文集に書かれたこれまでの学校生活の様子や決意からその一端を知ることが出来た。発表者それぞれに苦しい経験がありながらも、自分なりに将来の夢や夢中になれることを見つけ、表現していて、文章を読んだだけであるが胸を打たれた。例年通りであれば、きっと素晴らしい発表を聞くことが出来たのだろうと思う。

授業参観では、服装の違いにはじめは戸惑ったが、学習に向かう姿勢は全日制の生徒と同じであった。先生方は少人数であるぶん、生徒の個性をふまえて授業をされていたように見受けられた。また、生活体験発表を聞いたことで、定時制、通信制に通う生徒は入学までの背景が多様なぶん、学力の層も広いことを知った。

最後に後藤校長先生より、定時制・通信制教育とその課題について伺った。通信制高校の設立当初は高校進学率も低く、働きながら学びたい人が多かったという背景があった。しかし、現在定時制・通信制を選ぶ理由は様々であり、多様なニーズに応える必要があるという。また、それに伴い履修方法も学校によって柔軟に対応していることを知った。加えて明徳館高校の学習形式やリポートについても伺った。直接学校で授業を受ける回数が少ないぶん、生徒自身が自力で学習する必要があるという。予想以上の量と内容に驚くとともに、通信制を選ぶには自己管理に努めるという意思がなくては厳しいと思った。近年では通信制高校の生徒数が増えているという。多様性に柔軟に対応することが出来る一方で、中途退学数も多いという現状を適切に把握する必要があると感じた。

講話を通し、学ぶ手段は全日制高校に通うだけではないことを改めて実感した。学びたい意欲を持ちながらも様々な理由で高校を続けられない人、学習に困難を抱える人がいる。全日制の教員として生徒が毎日学校に来ることができるよう環境を整えたり、関係をつくったりすることは当然のことではある。一方で学校に来ることが難しい生徒のためにも、通信制高校の特色を知らなくてはならないと感じた。

8. 校外研修「初任者研修Ⅶ期」

●実施日　令和 2 年 10 月 20 日(火)

●場所　本校教室、会議室

加藤昌宏指導主事に来校していただき、授業を参観していただいた。

研究授業では、鎌倉文化のうちの鎌倉新仏教について取り扱った。浄土宗、浄土真宗、時宗がなぜ庶民に支持されたのか、教義と旧仏教との比較から考察し、図示する計画であった。実際の授業では 3 種の宗派の教義から念仏系新仏教の共通点を見いだすまでに時間がかかり、旧仏教との比較を丁寧に行うことが出来なかった。

協議会では地歴公民科の先生より、「導入から主発問までがスムーズだった」、「考察したことを図示する活動が新しいと感じた」と評価していただいた。一方で、「図示」することの意図がどのくらい生徒に伝わっていたか、示された内容に本時で目指した内容が反映されているかなどのご指摘をいただいた。本時の目標を達成するためには、図示する活動に十分な時間を

しっかり確保する必要がある。内容、資料を精選し、問いも構造化する必要があると感じた。

今回協議会で評価していただいた点については今後も継続して取り入れていきたい。課題については、他の先生方の授業を見学させて頂ながら、内容の精選、問いの構造化について学んでいきたい。

9. 校内研修「研究授業と協議」

●実施日　令和２年 11 月 10 日(火)

●場所　本校教室、演習室２

本校公開研究授業で、室町時代の「東アジアとの交易」について研究授業を行い、その後地理歴史科の先生方と横手清陵高校の泉田先生と協議を行った。倭寇＝日本人の海賊という固定概念からの脱却を目指す内容とした。

協議会では良かった点として、ICT を効果的に利用できていた点や、主発問が生徒にとって切実感のあるものであったこと、多様な資料が準備され、倭寇の固定概念を覆す材料があったこと、生徒の考えを板書に反映させそこから授業が展開されていたことなどをあげていただいた。

改善点として、学習活動一つひとつにもう少し時間をかけて指導したかったこと、併せて資料が多く一つひとつの資料の読み取りが浅かったこと、倭寇についての知識も資料から読み取る形であれば良かったこと、学習課題を提示するまで時間がかかってしまったことなどご指摘いただいた。「初任者研修Ⅶ期」の授業で改善点としてあげた内容・資料の精選について改善しきることが出来なかったことが反省点である。

今回の教材研究や協議会を通して、他の先生方の豊富な知識や経験を感じるとともに、同じ題材でも多様なアプローチの仕方があることを改めて感じた。今後も他の先生方の授業から学んで実践と改善を繰り返していきたい。

10. 校外研修「初任者研修講座Ⅸ」

●実施日　令和３年１月６日

●場所　秋田県総合教育センター

今年度最後の校外研修であった。

はじめの「いじめ・不登校」「特別活動」については生徒指導に関する講義、演習が中心の研修であった。いくつかの事例に関し、大まかな対応の流れはわかっていたつもりだったが、いじめの現場を目撃した場合など、その場での対応については理解不足な部分もまだあることに気付いた。また、教師の注意を聞いてもらうには、日頃から信頼されていなくてはならないというお話を聞き、常に見られ、評価されているという意識を持つ必要を改めて感じた。

続いての「学校組織の一員として②」では、現段階で自分が持っている資源を考えながら、来年度の目標を考える良い機会となった。来年度以降は今年度以上に生徒と関わる機会が増えるだろう。謙虚に学び続ける気持ちを持ちながらも、自信をもって教科指導をし、時には毅然とした態度で指導にあたれるような教員となりたい。

閉講式では難波文彦主幹より、教員として身につけてほしい力と初任者への期待についてお

話しいただいた。その中で、世阿弥の『風姿花伝』「年来稽古條々」の一節を引用した激励の言葉をいただいた。また、教員として身につけてほしい力として「角を矯めて牛を殺す」ことのないように、しっかり生徒を観察して認め、励まし、勇気づけることをあげていた。この１年は１年部に所属していながら１年生一人ひとりとなかなか向き合うことが出来なかった。授業も生徒を観察する機会の一つであるが、そのほかの時間も有効に活用し生徒理解を深め、適切に励ましたり勇気づけたり出来るようになりたい。

校外での初任者研修は今回で終了となる。熱心に指導してくださったセンターの先生方、切磋琢磨し合えた同期の先生方のおかげで大変充実した研修となった。様々な場面で学んだことはもちろん、自分の未熟さに対する悔しさ、歯がゆさも初心として留め、今後も信頼される教員となるために努めたい。

11. 校内研修「研究授業と協議」

●実施日　令和３年２月４日(木)

●場所　本校教室

「惣村」について研究授業を行い、参観していただいた先生方からご意見をいただいた。

対象は２年１組で、惣村同士の争いが起こったとき、どのようにして解決したのか、資料をもとに考察することをねらいとして授業を構成した。

良かったこととして、既習事項を活用した導入で中心発問までの流れがスムーズであったこと、グループ活動を通して東京大学の入試問題に挑戦できたこと、少人数授業であることを生かした授業内容であったこと等があげられた。また、公開研究授業までの課題であった内容・資料の精選に関して、今回は改善されたと評価いただいた。

少人数で全体を把握しやすかったこともあって、論述問題を解くという授業展開でもスムーズに進める事が出来た。通常の人数が多い授業でどのように授業を展開するか検討していきたい。３回の研究授業を通して課題点が改善されつつあったことは自信になった。これは地歴公民科の先生方や他教科の先生方の授業を見させていただいたことが大きいように思う。今後も校内相互授業参観月間でなくても積極的に他の先生方の授業を見て、学んでいきたい。

12. おわりに

校内、校外たくさんの先生方のおかげで、学習指導はもちろん、学校運営や生徒指導など多くのことについて理解を深めることが出来た１年間であった。お忙しい中でお時間を割いてくださった先生方に感謝申し上げる。自分の未熟さを感じる場面が多くあった。今後はその悔しさを忘れず、より教員として成長していけるよう学んでいきたい。

実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）を終えて

英語科　奥劦屋　景子

１．はじめに

初任校を経て本校に赴任し８年目を迎えた今年、授業力の向上を目的とし採用８年目を迎えた先生方との合同研修を受講した。今回の研修はこれまでの初任者研修や５年経験者研修とは異なり、ある程度の経験年数を重ねた上での研修ということで、日頃生徒と接する上での疑問や授業における悩み等の解決の糸口をみつけるべく、目的意識を明確にして研修講座に臨んだ。

２．実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）Ⅰ

【日時・場所】令和２年６月２４日(水)　秋田県総合教育センター

【日程・内容】10:15～12:00 不登校の未然防止と対応

13:00～14:05 学校組織の一員として　－自己理解に基づく目標設定－

14:15～16:15 カリキュラム・マネジメント

【感　　想】

１つめの講義では不登校の生徒が受講時点で自分のクラスにいたため、非常に参考になった。学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、社会的自立が目標であることを再確認したり、居場所作りの実践や困難を克服しようとする活力＝勇気を引き出す声がけなど、ペアワークで意見を交換し、新しい方法を知ることができた。２つめの講義では教師として大切であると思う資質・力量についてそれぞれ考え、それらをグループの中で共有し他者と自分の考えの相違が明確になり、改めて自らの教育観を確認することができた。３つめの講義で特に印象に残ったのはＰＤＣＡサイクルは毎日でも回せるということだ。年間、単元などある一定のスパンでのみ考えていたが、評価を核にマネジメントサイクルを回すという点さえ踏まえれば、毎日でも回すことができる。

３．実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）Ⅱ

【日時・場所】令和２年９月７日(月)　秋田県総合教育センター

【日程・内容】10:00～12:10 授業評価による継続的な授業改善

13:10～15:20 授業評価による継続的な授業改善

15:25～16:05 授業評価による継続的な授業改善

【感　　想】

今回は他教科（筆者含めて４名）の授業DVDを見て批評しあうという内容で、授業自体を理解できるのかなど不安であったが、目標に到達する手立ての講じ方は適切かという着眼点があったため、非常に楽しく授業のDVDを拝見した。８年目ということで、授業者それぞれが自らの日頃の授業に関する悩みを抱えていてその解決策を必死で模索していた。同期という仲間意識からか、お互いの悩みを率直に述べあい、それぞれの教科の立場や経験からアドバイスをし

合う温かい雰囲気ができあがっていて良かった。生徒に書かせた板書の扱い方、私の話す英語、思考を深めさせる上でのツール、大学入試への対応という側面とコミュニカティヴな側面のバランスの取り方など、今後の指導に役立つことを御教示いただいた。

４．おわりに

採用３年目の研修で、「生徒の中で develop（進化）と deepen（深化）はあったのか」と指導主事の先生に指摘されて以来、何のために生徒に意見を出させるのか、意見を出させたその先に何を生徒に見せたいのかという点に気をつけて授業を行ってきた。今回の研修で、その点に関して自らの授業を振り返ったとき、至らない点はあるものの当時よりは幾分改善されたのではないかと感じることができた。また同期という仲間同士、正直に自らの悩みを吐露し、それぞれが異なる科目でありながらも互いを思いアドバイスし合えたことが嬉しかった。今後もさらなる授業力向上を目指し、日々研鑽を積んでいきたい。

「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

実施日時：令和２年７月 22 日(水)4 校時
場　　所：２年６ 組教室
対　　象：２年６組
授 業 者：奥劦屋景子
教　　材：PROMINENCE
English Communication Ⅱ

１．　単　元　名　Lesson5　Taking the Sting Out of Jellyfish

２．　単元の目標

（１）クラゲはさまざまな面において、人類にとって大切な共生すべき生物であることを理解する。

（２）No matter ＋what などで始まる節、完了不定詞を用いて自分の考えを述べることができる。

（３）クラゲの特徴でもある不死についての考えを伝え合い、自分の考えをより深める。

３．　単　元　観

英文はクラゲのさまざまな特徴について書かれている。クラゲは刺された経験や、大量発生による漁業被害などの否定的な印象を持つ一方で、下村博士ががん細胞とクラゲに関する研究でノーベル賞を受賞したことや、水族館における人気の高まり、コラーゲンによる保湿効果の高さなど、人類にとって大切な共生すべき存在である。本課を通じてクラゲに加えて様々な生物に対する関心をもたせ、環境・生物との共生についても考えさせたい。またベニクラゲが不死であることから、不死に対し肯定的かつ否定的側面の両面から考え、自分の考えを伝えあう活動を行うことで、物事をより広く考える一助になるものと考える。

４．　生　徒　観

落ち着きのあるクラスであり活動にも一生懸命取り組むことができる。これまでも簡単に自分の意見や思いを述べる活動を行ってきたが、今回はある程度まとまりのある内容を述べることとした。一旦両面から不死について考え、その後他者の意見を聞いて自分の考えをより深め、再度自分の意見をまとめるという流れである。

５．単元計画（総４時間）

１時間目…Part1　　４時間目…不死について考える【本時】
２時間目…Part2　　５時間目…Part4
３時間目…Part3　　６校時目…章末問題

６．　単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
クラゲは大切な共生すべき生物であることを読み取り、関心を持つことができる。 不死について広く考え、伝え合おうとすることができる。	肯定的側面かつ否定的側面の両面からテーマについて考え、接続詞や論理関係を表す副詞を用いて、自らの意見を論理的に述べることができる。	下村博士がクラゲでノーベル賞を受賞したり、クラゲはその保湿効果の高さからも注目される存在であることを理解する。 他の生徒の発表内容を整理して聞くことができる。	プレゼンテーションの形式で話が展開しており、導入、本論、結論と考えを整理して理解することができる。 論理関係を表す語句の持つ役割を理解している。

７．本時の学習

（１）　目標

不死についての考えを伝え合い、自らの考えを深めることができる。

（２）本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5 分	・Warm-up（クリスクロス） 本文の内容に関する Q&A を行う。	・明るい教室の雰囲気を作る。	
展開 44 分	・本時の目標を提示する。 Q.　Would you like to become immortal ? ・率直にどう思うか考える。 ・肯定的側面かつ否定的側面を書き出す。 ・グループになりアイデアを共有する。 ・各グループの代表者１名が黒板にアイデアを書く。 ・黒板に書かれたアイデアを全体で共有する。 ・再度、不死について考え直す。 立場、理由、結論のメモを完成させる。 ・教室を歩き回り、最低３人以上とメモを見ながら考えを伝え合う。 ・数名の生徒は全体に対して発表する。 ・自分の不死についての考えを英語で書く。	・可能な限りたくさん書くよう促す。 ・必要に応じわかりやすい表現に言い換えたり、新たな視点を与え思考をゆさぶる。 ・意見が変わっても構わないことを知らせる。 〈評価〉 授業後にプリントを回収し評価する。	B
まとめ 1 分	・挨拶する。	・提出するように言う。	

令和２年度仙台三高と横手高との相互交流事業　概要

１　目　　的　　授業改善、教員の授業力向上をねらいとし、教員が相互訪問をし、授業参観、研究授業、授業協議会を行う。

２　期　　日　　令和２年１０月２２日（木）～２３日（金）　　１泊２日

３　訪 問 者　　主幹教諭　　穀田　浩美　先生（数学）
　　教　　諭　　前田　宏美　先生（英語）
　　教　　諭　　佐々木遙子　先生（国語）

４　日　　程

１０月２２日（木）

１１：００　　仙台三高到着
　　説明（対応　副校長・教頭）、学校案内
１１：５５～　　４校時の授業参観（翌日授業のクラスを参観）
１２：５０～　　昼食
１３：３０～　　理数科の研究発表会の視察
１６：３０～　　教科打ち合わせ

１０月２３日（金）

９：００　　来校、準備等
９：４５～　２校時の研究授業
　　１２組　国語総合（古典）「芥川」
１０：５０～　３校時の研究授業
　　１５組　コミュニケーション英語Ⅰ
　　１７組　数学Ⅰ
１１：５５～　４校時　研究協議会
　　国語　会議室　　数学　演習室１　　英語　演習室２

１２：３０頃　出発

仙台三高との相互交流事業における教科協議会の記録（国語）

【研究授業】

日　　時　　１０月２３日（金）２校時
対　　象　　１２組
授　業　者　　仙台第三高等学校教諭　佐々木遙子　先生
科目・単元　　国語総合（古典）「芥川」

【研究協議会】

日　　時　　１０月２３日（金）４校時
参　加　者　　佐々木遙子先生、本校国語科教員

【授業者から】

今回の授業でポイントにしたのは「類推型・推論型」の手法をとることで、生徒の思考に「ゆらぎ」を引き起こすことにあった。生徒の持っている知識と経験を駆使させて、初見の文章をどのように読み解かせるのか。その部分の能力を身に付けさせるために、生徒の固定観念を揺らがすような授業を目指した試みであった。場合によっては生徒のミス・リードを誘発するような問いを設定しつつ、「問いのない答え」に立ち向かう能力を身に付けて欲しいと考えている。

【質疑応答・協議等】

成田：推論型の授業を興味深く拝見した。「答えのない問い」に対して、ワークシートを用いながら立ち向かっていく授業展開が面白かった。本文の内容をからこの後の物語の展開を予想させることで作者の意図を考えさせることができていた。また、生徒から出てきた発言を生かしながらの授業になっていた。語に注目させる授業は現代文にも生きるものである。文法事項に関してはどのようにするのか。そもそも推論型の授業を行うきっかけはなんだったのか。
川越：生徒を飽きさせない工夫がなされていて、生徒が能動的に授業に臨んでいた。パワーポイントが効果的に使用されていた。また、授業の時間配分が絶妙で、無駄のない１時間であった。答えのない問いはどのように扱うのか。
今入：教科書の本文の後に存在する「追記」の扱いについてはどうするのか気になった。つまり「鬼」というものについてどのように考えさせるのかが気になった。
能美：授業における活動のバランス、タイミングが素晴らしかった。それぞれの活動（ペアワーク、情報の共有、読み合い、回し読みなど）が何を射程に入れるかが明確であった。また、ともすれば簡単な言葉で端折ってしまいがちな部分でも細部に目の行き届いた言葉で説明がなされていた。
古谷：問いに対する答えとして、どこまで・どのように予想をさせたいか。
松江：パワーポイントを用いた無駄のない授業内容と進行が素晴らしいと感じた。予習を一切させない状態でどのような授業展開になるのか気になっていたが、一度試してみたいと感じた。

仙台三高との相互交流事業における教科協議会の記録（数学）

【研究授業】

日　　時　　１０月２３日（金）３校時
対　　象　　１７組
授　業　者　　仙台第三高等学校主幹教諭　穀田　浩美先生
科目・単元　　数学Ⅰ「図形と計量」（章末問題より）

【研究協議会】

日　　時　　１０月２３日（金）４校時
参　加　者　　穀田浩美先生（仙台三高）、本校数学科教員

【授業者から】

従来のやり方では「表現力」について評価する場面がない。そのため、「表現力」を評価する方法を模索して、このようなパフォーマンステストを始めた。１年生の自分が担当するクラスで、１つの章が終わるたびに行っている。ルーブリック評価シートも事前に作っている。生徒の説明の動画は ipad に保存して、後で全員分を見ている。自己評価、グループ内相互評価、動画で評価している。普段は、章末問題を２時間かけて解かせて、そのうちの２題をピックアップしてパフォーマンステストを行っている。どの２題がピックアップされるか、生徒はその時間まで分からない。

【質疑応答・協議等】

・仙台三高の生徒と横手高校の生徒と比べて、どのような違いがあるか。
　→横手高校生の発表する姿勢は良い。ただ、発表に慣れていないと感じる。横手高校生は素直だが静か。仙台三高の生徒はこのような授業をやるととてもうるさい。
・グループの人数は何人くらいが適当か。
　→４人がベストだと思う。５～６人だと、対角の生徒が話しづらい。
・普段の授業はどのように行っているのか。章末問題にこんなに時間をかけて進度はどうか。生徒のノートの使い方についてどうしているか。
　→普段の通常の授業は反転授業を行っている。生徒は事前に動画を見てきて予習しておく。授業の最初に５分間の小テストを行い、その後解説をする。解説した内容は小テストに直接書き込む。教科書にも説明したことを直接書き込む。授業でノートを使わせない。プリントを使ってグループで学習している。だから、教科書を早く進めることができ、章末問題の演習に時間をかけることができる。

仙台三高との相互交流事業における教科協議会の記録（英語）

【研究授業】

日　　時　　１０月２３日（金）３校時
対　　象　　１５組
授　業　者　　仙台第三高等学校　教諭　前田　宏美　先生
科目・単元　　コミュニケーション英語Ⅰ　Lesson7 Talking Plants

【研究協議会】

日　　時　　１０月２３日（金）４校時
参　加　者　　前田宏美、武田誠建、嶋田仁、藤原誠、佐藤寿子、大塚のぞみ、渡辺伸吾、
　　沓澤信宏、奥劔屋景子

【授業者から】

今回は、自分の意見を話すというよりは、part1～part3 の内容をまとめる内容だったので retelling のような形の展開にした。

生徒がどのように内容をまとめていくのか分からなかったが、活動の様子を確認したところ、教科書の文をそのまま書いてまとめていたので、途中でアドバイスを入れながら修正を行った。

今回は時間が足りなかったが、最後は完成したパンフレットを使ってプレゼンテーションをさせたかった。

【質疑応答・協議等】

渡辺……今回授業をお願いするにあたり、是非アウトプット活動を入れてくださるようお願いした。授業内で生徒に「自分の言葉で表現する」よう指示をされていたが、最近生徒にそういった機会をあまり与えていなかったように思うので、今後はもっと取り入れていきたいと思う。

沓澤……生徒が英語で表現する際に、教科書からそのまま文を抜き出して答えることしか出来ていないので、これからももっと「自分の言葉で表現する」機会を増やしていきたいと思った。吹き出しに台詞を入れる活動は生徒も取り組みたいと思える活動で、自分でも以前やったことがあったが、今度は使う文法事項を決めたりしてやってみたいと思った。

大塚……英語が話しやすい、英語を話したくなる授業の雰囲気づくりが素晴らしかった。情報をパンフレットにまとめる過程で、生徒は必要かつ最小限の情報を厳選し、分かりやすく言葉や表現を選ばなければならないので、とても効果的な活動だと思った。ただ、生徒がそのポイントに気づけていなかったので残念だった。

藤原……ICT を取り入れることを前提として授業の活動を考えているか。

前田……教科書を写真に撮り板書代わりに使ったり、生徒の書いた英文をその場でスクリーンに映して見せて、他の生徒にもシェアさせたり、生徒の英文を添削したりしている。Ipad の使い方は、出来る先生に聞いて教えてもらっている。

武田……パンフレットには文のままの英語を書くのではないことを、はじめに示したほうが良かったのではないか。また、取り組ませる活動が多すぎたのではないか。

前田……先ほども述べたとおり、生徒がどのようにまとめていくのか、生徒の英語力などが分からなかったので、上手く授業案通りにはいかない部分もあったが、日頃からあまりこちらから例を示しすぎないようにはしている。また、完成しなくても、生徒が教科書の内容（情報）を整理できれば、それでもいいと思った。

奥劦屋……将来までを見据えた活動を考えられていてすばらしかった。武田先生と同じで、パンフレットを作るということであれば、その読み手を意識した書き方を、活動を始める前に示したほうが良かったのではないかと思った。

嶋田……パンフレットのための表現と、吹き出しに入れるべき表現は違ってくると思うが、今回の授業では、そのどちらも表現させるような形だったので、生徒に求めるレベルが高かったと思った。活動の途中で他のグループからアイデアやヒントを盗んでくる「スパイ」の活動が良かった。この方法だと、発表する前に自分たちの作品をより良いものにできるし、次のステップにもつながりやすいので良い活動だと思った。

前田……「スパイ」の活動は、以前視察に行った学校の数学の授業で行われていた活動からアイデアをもらった。授業の活動の中でできた良い作品については、後で見せるのではなく、なるべくその場でシェアして、どんどん使わせるようにしている。

　別件ではあるが、パフォーマンステストについては、テスト前に、テスト範囲の内容を使って行っている。学習内容の定着にもなるし、生徒も積極的に臨んでいる。

校内研修会（SSH に関する研修）

研修部　成田　陽香

1　目　的　本校の SSH の目標「エビデンスを基に議論を積み重ね，国際社会で活躍するグローバルサイエンスリーダーの育成」及び、これまでの取り組み状況や今後の方向性を全教員が共有する。さらに、各教科の目標との関連や、教科・科目の特性に応じた取り組みの視点を検討する機会とする。

2　日　時　令和３年２月１５日（月）

3　対　象　全教員

4　内　容　①今日の進め方の説明

②本校の SSH 目標の再確認と経過

③教科別協議…グループ協議

（公開研究授業の振り返りとともに、各教科の取り組みの中ですでに行っていることから SSH 目標との関連が深い部分を挙げる）

④教科横断協議…教科混合で協議（③の報告と共有）

●SSH の目標に応じた各教科の取り組み

【国語】

・複数資料（関連する文章のほか、新聞やグラフも含む）を用いて分析する活動を実施した。多角的な観点を養うことに繋がるのではないかと思う。

・ディベートは論理の穴をつく論証が必要なので、エビデンスを元に議論するという目標に合致する。読みに偏らない活動を心がけている。

・科学に関する評論を読むことを通して、科学観、倫理観を養う。

・レポートや発表における表現力を向上させるような活動を行う。

【数学】

・生徒に説明させて表現力を養う。身近な話題について数学を用いて解決させる問いを作りたい。また、生徒自身がグラフを作るアプリの活用を考えている。

・進度を早めて学力をしっかり確立させることが第一。発表させる、あるいは考えさせるグループワークは、教科書での学習に隙間をつくって差し込んでいくしかない。

・Chromebook でグラフを見つつ、デジタル教科書を用いて授業を行っている。

【英語】

・授業で SDGs について英語で書かれた資料を扱った。

・将来英語でプレゼンができるように、TED を見せている（特に科学的な分野）。

・MDS 発展では ALT 相手に英語で発表させるが、現状は質疑応答まではできない。また、英作文指導が難しい（場合によっては教授、あるいは ALT の力も借りる必要がある）。

・授業内容の中で科学的な内容のものを取り入れたいが、授業の進度との兼ね合いが難しい。

【理科】
・実験の際企画書を渡さない。生徒が ICT 機器を使用しながら、試行錯誤して実験をする。
・物理ではシュミレーションソフトを用いて、生徒が納得しやすい工夫をした。
・実験器具を複数用意し、生徒がグループになってそれぞれの実験を回りながら行う。
・各科目の実験では結果を共有したりまとめたりと、議論の場や時間を増やしている。
・日進月歩の科学。英語による最新研究の Youtube を見せている。

【地歴公民】
・資料に基づきながら仮説→検証の手順を踏む授業をこれからも行っていきたい。一方、資料の分析や収集には労力と時間がかかるという難点もある。
・地理のフィールドワーク、地域特性、経済、地学などはつながっている。教科横断的な学習はデータ収集が難しいが、公的なデータを利用して分析を中心にするなどの方法があるか。
・地図や資料の提示などで ICT を活用できている。

【実技】
・調べ学習や映像を撮るなど、ICT 機器を取り入れた授業を行っている。
・（美術）では、作品を作りっぱなしにせず、ICT 機器を活用して CM や POP を作成するなど、発信する活動も取り入れたい。
・（保健体育）科学的なデータ（体温報告、朝食摂取の有無）と運動記録などを掛け合わせてデータを分析。

●研修会を終えて（研修部より）

各教科での取り組みは、SSH の目標及び新指導要領に即したものになっている。変化がめまぐるしい世界を生き抜く資質の根幹をなすものとして、国語の科学観や倫理観の養成、最先端の知識やあらゆる社会現象への深い洞察、データを集め分析する力、そしてそれらを発信する英語力や表現力の育成のための授業作りが各教科で行われている。

発展的な学習に更に取り組めるように、普段の授業進度を速めるよう工夫している教科が複数あった。何かを調べたりまとめたりする上でベースになる学力をどう定着させるか、また継続的に取り組むにあたり、どのように工夫しているのか、今後教科内外で共有していきたい。

他教科の先生同士で取り組みを紹介するなかで、教科横断についても言及があった。「教科横断」と銘打たなくとも、すでにある科目間の結びつきを日々の授業の中で、意識したり、生徒に気づかせたりしていけばいいのではないか。同じく講演会や理数科の課題研究、普通科の自由課題研究などの校外を交えた活動も、普段の授業と関連させるための働きかけが必要だと考える。また、横手高校として育成すべき資質・能力について、どの教科でも意識を共有して授業を行うことが、教科横断的な授業や T.T.にも結びついていくと考えられる。年度当初に各教科で育成すべき資質・能力を確認し、シラバス段階から考えていく必要があるのではないか。

次年度は SSH４年目であり、各教科で確立しつつある取り組みも増えてきている。年度初めに新任の先生を含めて取り組みを共有するとともに、更なる充実を目指して研鑽に努めたい。